

年号	出来事
●fial	創世記
約 137 億 年前	ガレットが発生し、すみやかに arma になる。同時に物理的にはビックバン (armas という。当時はビッグバンはアルマによるものと思われていたため) が起こり、最初期宇宙となる。
同	膨張した arma が爆発し、ardel と lekai という 2 つの空間とアルマ以外の幻暁(yuno,vir,noa…)と、arte という aten が生まれる。物理的には初期宇宙 (陽子、電子、中性子そして原子核、原子が生成され、それから恒星とクエーサー、銀河、銀河団、超銀河団が形成)。まとめ: ガレットが生まれ最初期宇宙となった空間が最初の空間。最初のアテンがアルテで、実体は白い球。アルマの爆発時にできたセレスはすべてアルテに入った
同	ardel に veeyu ができる。seles がここから発生するようになる。最初の爆発によるセレスはすべてアルテの中
同	ardel が天国 twaayu と地獄 latia に分裂
同	arma が膨張して爆発した際、viid は ardel に偏って分配された。ardel に溜まった viid と veeyu でできた seles から atwaayu が生まれる。実体は黒い球
同	初期の lekai は viid 的に空な状態だったが、唯一 arte が viid を持っていた。ここに気圧と同じ考え方で、viid 圧の差が原因で、高 viid 圧である ardel から lekai に viid が流出しはじめた。この流出の際に viid が流れた空間が道となり、avelantis となる
同	arte が viid を受けて膨張を始める。arma の発生からここまではほんの一瞬の出来事
約 136 億 年前	銀河系が誕生する。arte は銀河系に位置するようになる。viid は arte に流入し続け、arte は膨張を続ける

約 46 億 年前	太陽系が誕生する。arte はここに位置するようになる。惑星アトラスなどができ始める
約 45 億 年前	アトラスが完成する。arte の膨張が限界に達し、ardel に viid を送り返すため、自分のセレスを分けて luno という存在を生む。しかし luno は viid の暴発を防ぎきれず、arte の膨張を止められぬまま不完全な存在として ardel へ行った
同	なお、意思を持った luno は白い球体であり、女に相当する。対立項である男が存在しなかったため、力の拮抗が取れなかった（一方の arte には atwaayu という対立項があった）
同	atwaayu が luno の力の暴発を押さえ込むようになり、arte との力のバランスを失う。atwaayu から alatia が分離し、協力して効率良く viid を使うことにより、arte との拮抗を取り戻す。分離の際、atwaayu と alatia は意思を持つようになる。まとめると、ルノはアルテのセレスを持つ。アトワユはヴェーユからセレスを得、アラティアはアトワユからセレスを得ている。従って原始のアルテのセレスの種殻は死神になると思われる。一方、アルテが分裂してできたエルトとサールは神の種殻を持っている
約 10 億 年前	多細胞生物がアトラスに出現
約 6 億 年前	カンブリア爆発で生物が多様化
古生代	約 5 億 7000 万年前～約 2 億 5000 万年前の期間で、三葉虫、アンモナイトなどが生まれ、温暖期になり、昆虫が拡大し、ペルム期で多くの生物が絶滅
中生代	約 2 億 5000 万年前～約 6500 万年前で、恐竜が出現。2 億年前にはパンゲア大陸が分裂し、哺乳類が出現。1.5 億年前には始祖鳥が出現

約 7000 万 年前	metio が alkat に衝突。その後（約 2500 万年前ごろ）山脈を形成
約 6500 万 年前	白亜紀末で、恐竜が絶滅。その後、霊長類が出現。約 7000 万年前にサヴィアに現れたブルガトリウスが最古で、約 5500 万年前に現れたアダピス類は下記セルトより新しい
64,989,112 年前	arte は luno に viid を与えたため、約 44 億年弱の間、爆発を防げていた。しかし遂に爆発の危険が生じ、今度は luno のように失敗しないよう、男神エルトと女神サールに分裂した。彼らは互いの力を相殺し、力のバランスを取った。彼らは黒い球と白い球の姿をしていた。太陽系の惑星からアトラスを選んでフィーリア島で、アトラスの公転周期のうち 1 日間だけ逢瀬を重ねることを決めた。この時点で彼らは自らの形質を当時新興勢力として生まれてきた知能の高い生物である霊長類に合わせた。ただし脳を大きくするために二足歩行を可能にし、背骨を立たせた。同時に魔法で暑さ寒さをしのげるため、体毛も薄くした（この時期は温暖）。現代人に非常に似た形質をしている。彼らの総称は sel t で、彼らの誕生を以って最初の暦セルト暦が始まる。この逢瀬が今後約 6400 万年間続く
同	アトワーユとルノとアラティアがエルトとサールの形質を真似、人間型になる
同	エルトとサールが肺臓気流を利用した音声による意思疎通を始め、原初の言葉フィーリア語(f)が生まれる
同	エルトが minakalmo を作る
約 4000 万 年前	leiva で氷河の形成がはじまり寒冷化が始まる
約 2500 万 年前	ファベルに最古の類人猿が出現
約 1500 万 年前	anxal に隕石が落下。クレーターを形成

約 1300 万 年前	類人猿が alkat に入る
約 600 万年 前	ヒトとチンパンジーが分化。猿人の出現。直立二足歩行を始める
約 250 万年 前	ヒトが石器を使い始める。セルトは年に 1 度北極近辺のフィーリア島で逢っていただけなので猿人との関わりはない
selt 63,938,964	エルトとサールの力の拮抗を保つため、彼らは愛し合っている子供を作らない約束をしていた。子供ができれば女性が大きく力を失うためである。ところがこの年、エルトを愛する思いのあまり、サールが懐妊
●artem	神々の時代。終末から数えて 105 万 147 年前から始まる
selt 63,938,965 :meltia 0	サール、娘のユーマを出産
同	ユーマが生まれて生じた歪みに悪魔チームスが生まれ、悪魔アルマやメルティアらを産む。これら悪魔科は太陽系に入り、宇宙で生き続ける
同	〔言語〕 悪魔 bert を通じて悪魔が f を習得する。様々な姿に変身して遊んでいた神や悪魔たちだったが、同じ言語を共有してコミュニケーションの効率化を図るため、おおむね口腔の形状や喉頭の形状が等しい人間型を選択するようになっていった
同	〔言語〕 悪魔 meltia が指の数を元にした 10 進法を開発。暦を数えるのに用いた。セルトは 1 や 2 などの小さな数を表す語しか持たず、それ以外は記憶したり逢瀬の回数をミナカルモに刻んだりしていた。また、逢瀬の日は日付のカウントでなく、

	太陽とアトラスの位置で判断していた
同	サール、エルトにユーマを引き合わせる。エルトは約束を破られたことに腹を立て、サールを捨てる
selt 63,938,969 :meltia 4	便宜上ここからを fv とする
同	逢瀬の場所であるフィーリアのミナカルモに4年連続エルトは訪れず、悲観したサールはユーマをセルア山から捨て、自分も落ちて自害。四散した死体がサールの一族、アルミヴァの12神の半分を産む。ユーマは死を免れ生き延び、突如5歳程度の幼女の姿になる
同	一歩遅れでエルトがサールを許してミナカルモに来たが、サールの死体を発見。自身はセルハノイの塔を建て、頂上で自害
同	veeyu で生まれたセレスは lekai で aten の中に入り込む。aten が死ぬと seles を veeyu に回収し、綺麗なもの（球体）を twaayu に、そうでないもの（歪んだ形）を latia に送る。エルトとサールが死んだことでセレスを回収する必要があるができ、回収人としてルノはアトワユと交わり、子を作る。性交直後に生まれた4人の子供は上から順に fremelte, xuuze, vergina, alhaik
同	長女フレメルテがサールを回収、長男シューゼはエルトを回収した。シューゼはこっそりエルトのセレスを食べた。次女ヴェルギナはフレメルテを騙してサールのセレスを横取りし、それを食べた。この行為に腹を立てたルノは、シューゼとヴェルギナを追放した。彼らはセレスの味が忘れられず、夢喰種となった。エルトとサールのセレスは強すぎて消化できず、シューゼとヴェルギナの腹の中に封印されている
同	アルミヴァのヴァルゾンがエルトの死体を四散させ、残り半分のアルミヴァが誕生し、エルトの一族が生まれる。神々は時の司メルティアを取って、彼の生まれた年をメルティア元年として遡って暦を改める
同	クレーヴェルが太陽年を測り、グレゴリオ暦と同じ計算法を作り、メルティア暦に組み込む
同	メルティアがアトラスにおける1日の長さを24時間に分けた。アルミヴァの12神が昼夜で2周するように分割したため

	ある。ここから12進法の考えが生まれ、分と秒についてはより細かく刻むため、12と10の公倍数である60に定めた。また、円の一周をさらに細かい公倍数である360°に定めた
同	形状を人間型に安定させたことで神々のサイズが固定化された。これにより神々にとってサイズは可変なものという意識から固有なものという意識が生まれた。そして度量衡が作られることになった。エルトでもサールでも悪魔でもない中立な存在として少女ユーマの身長と体重を単位とした。5歳程度の姿をしていたユーマの身長は約107.2cm、体重は約17.4kg
同	エルトの一族とサールの一族がフィーリア島で互いに分かれて暮らし、派閥を形成
同	tiknoがエルトが作った最初の家から九十九のbakkus神を生む。バックスが城と家を建築する。これで魔法を使わずともある程度寒さを凌げ、楽になった。
meltia 5	fenzelがhainを無性生殖にて生む
同	kalzasが上弦の月の光からduurgaを生む
同月下弦	tiknoが下弦の月の光からviineを生む
meltia 6	tiitelが自らに湧いた性欲をマグラン（チョウマメ）に単離し、娘のmaglaを生む
meltia 8	ティクノ、フィーリアの山で自然銅を発見。美しいと思ったポエンは自然銅からgilius神を生み、銅およびその仲間すなわち金属を支配させる。ギリウスは銅の製錬技術を発見
meltia 9	ギリウス、青銅を製錬
meltia 11	ギリウス、蛍石からパルティール照明を開発。これにより炎を使わずとも夜間でも作業ができ、暗所も調べることができるように
meltia 12	ユーマは生まれて4年ほどで捨てられ、そこで5歳程度の幼女の姿になり、その後8年ほどかけて12歳程度の少女に育つ。ヴァルゾンが少女ユーマに恋をし、ご馳走で誘惑してユーマを娶る。ユーマは性交渉を拒むが強姦され、ヴァルゾンの元を逃げる。このときユーマの膣内からヴァルゾンと交わったことでort神が生まれ出てくる。ユーマが一番最初に産んだのは

	人類ではなくサールのオルト神
同	ユーマ、クレーヴェルとハインに離婚を嘆願するも却下される。ユーマは無理に離婚をし、クレーヴェルらの恨みを買う
meltia 15	成熟したユーマは15歳程度の姿になる。五つ年下の duurga と出会い、恋に落ちる
meltia 16	ユーマ、ardu を出産
meltia 17	ヴィーネ、ユーマを誘拐し、強姦。ユーマ、クレーヴェルに訴えるも、過去の因縁のせいで救助されず
meltia 18	ユーマ、解放されるも隠れて娘の esta を出産
同	<p>・フランヴェールの魔女</p> <p>ヴィーネに恋するマグラがユーマを妬み、エスタを強奪。当時は皆フィーリア住まいなので、離れたガルヴェーユの flaver の泉に投げ捨てた</p> <p>ユーマは娘の居所を知るために再びクレーヴェルとハインにすがったが、人探しはお門違いと断られる。しかしサールを面白く思っていなかったカルザスはクレーヴェルの報告を受けてユーマの元へ行き、マグラが下手人であることを告げる</p> <p>ユーマはマグラの元へ行くと居場所を問うたが、マグラはエルトでもサールでもないユーマを見下していたため、にべもなく追い返そうとした。ユーマが泣きすぎると、それなら力づくで聞き出すがいいと挑発。エスタを取り戻すため、ユーマは力を解放し、マグラを超越的な力で破る</p> <p>娘の危機を知ったティーテルはこれを見て慌て、援護に入る。しかしティーテルは無力なため、見かねたティクノがユーマを止めようと横槍を入れた。だがティクノをもユーマはあっさりと撃退した。この事態を見守っているエルト、特にカルザスは思わぬ展開にほくそえんだ</p> <p>しかしこの事態を見ていたのはエルトだけではなかった。異変に気付いたメルティアはアルマに状況を伝えた。アルマはユーマの力を見、その潜在能力に恐怖した。圧倒的な力を持ちしかも宇宙に住む悪魔には敵がいなかった。だがユーマが強くなればチームスを凌ぐ可能性がある。チームスが敗れば復活ができず、ユーマに一族ごと滅ぼされかねない</p> <p>アルマはヴォテムを召喚し、ユーマに対する策を論じた。フレスティアとブレイスはユーマが脅威となる前に殺すべしと主</p>

	<p>張した。一方ヴァルテとクレートは下手に手を出せばユーマがこちらを攻撃する意志と理由を持ってしまうと主張し、ユーマはもともと非好戦的なので自分たちと利害関係が対立しない限りは無害なはずだと主張した。残る一票を持ったアルマは「今はユーマは確かに好戦的でないが、力を付けた後も同様にしおらしいかどうかは保障できない。アトラスより宇宙を好んで領土をよこせと言わない保障はない。後顧の憂いを断つべきでは」と考え、前者に票を投じた</p> <p>一方ティクノはマグラをユーマに謝罪させ、ユーマは矛を収めた。エスタの居場所を知ったユーマはガルヴェーユへ向かう。しかしフランヴェールの泉にはアルマがすでに待ち伏せしていた。アルマはユーマを殺そうとしたが、子を守ろうとするユーマの力はすさまじかった。ヴォテムを戦線に加えても不利な消耗戦になると踏んだアルマはヴォテムを召喚すると、全員でユーマを巨大な水晶に封じ込めた。水晶は小高い尖塔となり、フランヴェールの泉に槍のように突き刺さった。ユーマを恐れた悪魔たちはこれをフランヴェールの魔女と呼び、宇宙へ帰還した</p>
meltia 20	マグラがヴィーネを口説いて妊娠
meltia 21	マグラ、サールの putin (毒蛇) を出産
meltia 26	ギリウス、金を製錬
meltia 28	ギリウス、銀を製錬。金と比べ製錬に費用がかかることと、銀のほうが魔力の伝導率がよいことから、銀が最も高価な金属となる
meltia 29	ギリウスを通じてユーマの一族に金属が宝飾品として伝わり、製錬技術も伝わる。ギリウスの目的はユーマの一族から採掘の労働力を得ることであった
meltia 32	ユーマの一族が製錬技術を習得。住んでいた地域が銀山の麓だったこともあり、ユーマの一族の中では金が最も高価となった
meltia 34	アルドゥ、ユーマ捜しの途上でエスタと出会い、恋に落ちる。エスタはマグラにかけられた淫の魔法のせいで次々と子供を産んでいく
meltia 35	エスタ、eres を出産。以下、子供たちはすべてエルトでもサールでもなかったため、ユーマの一族としてサルト (エルト・

	サールの総称) から蔑まれ、ガルヴェーユ島へ追いやられる
meltia 36	エスタ、karfan を出産
meltia 37	エスタ、tromekia を出産
meltia 38	エスタ、parte を出産
meltia 39	エスタ、xinke を出産
meltia 40	エスタ、facet を出産
meltia 41	エスタ、kyuk を出産
meltia 42	エスタ、deit を出産
meltia 43	エスタ、sever を出産
meltia 44	エスタ、kap を出産
meltia 45	エスタ、jimn を出産
meltia 46	エスタ、subek を出産
meltia 47	エスタ、kooel を出産
meltia 48	エスタ、distel を出産
meltia 49	エスタ、yeevel を出産
meltia 50	エスタ、twarzel を出産
meltia 51	ギリウス、白金を製錬

meltia 52	トロメキアはネルメスに口説かれたが、遊びと知って断り、ネルメスを怒らせる。後に兄のカルファンと契る。パルテは水をほしがるとオルトに水を与え、その代わりに女らしくするように頼んだ。オルトはパルテに初潮を与えたがパルテはそれが何であるか知らず、オルトを罵った。怒ったオルトはパルテに不妊の呪いをかけた。パルテは兄のカルファンと契ったが、呪いのせいで妊娠しなかった。パルテはオルトに許しを請いに森を彷徨う途中、毒蛇のサールであるプティンを踏んでしまい、怒ったプティンに噛まれる。泣くパルテを見つけたカルファンはパルテの足を切り落としたが、パルテはその痛みで喘いで気を失った。後にこの脚はエレスの魔法で治してもらう。さてパルテの血は黄色い花に飛び、斑点を作った。オトギリソウである。そのときオルトが現われ、オトギリソウの根に妊娠を司るエルトの iidis を作り、イーディスを連れて去った
meltia 60	コーレル、姉エレスの姦計で同エレスを強姦
meltia 61	エレス、娘 testeel を出産
meltia 65	フェンゼル、テストエルがあまりに美しいため、これを誘拐し強姦
meltia 66	テストエル、息子 vales を出産。この息子はサールでなくユーマの一族でもなくエルト
meltia 67 以降	エスタの子供たちは次々に近親婚を繰り返し、ガルヴェーユで増えていく。ユーマの一族の数が増える
meltia 88	ギリウス、鉄を精錬。セイネルスを構成する物質によく似ていることに気付き、剣を作れるのではないかと考え、鉄器を発明。鉄器はユノの伝導率がよく、剣の材料に最適であった
meltia 89	ユーマの一族に鉄器が伝わる。剣と異なり、鎧の需要は神同様になかった
meltia 100	〔言語〕 〔文字〕 悪魔ベルトが文字を発明。神はそれに倣う。ベルトはこれまでの歴史をまとめるため、空間に文字を書く魔法 xante を開発。ならびに筆記用具を開発。歴史の記録にはセルトの記憶を受け継ぐアルミヴァも協力した
meltia 256	〔言語〕 ベルトがイカ墨からインクを作り、棒に浸して動物の革に文字を書く
meltia 389	〔言語〕 悪魔の中で人気を博した筆記用具だったが、この年、ヴァルテが麻から紙を作る

meltia 423	〔言語〕 ヴァルテが鉄の金属片に金属片を差し込んだペンを開発する。これら筆記用具は神の間にも流行るが、貴重だったため人間にはごく少量しか取引されなかった
meltia 430	〔言語〕 〔魔法〕 ベルトが anxante を開発→anxante
meltia 444	〔言語〕 〔魔法〕 ベルトが elxelt を開発し、各地に設置→elxelt
約78万年前	直近の地磁気逆転現象が起こる
約50万年前	北京原人の出現
約23万年前	ネアンデルタール人の出現。この前後に初めて etan から言語が生まれる。また、このころ温暖期がピークに
200,147年前ごろ	meltia 85'0000 ころ。ユーマの一族第三世代（エスタの16人の子供たち）が死亡。ユーマの一族の勢力が大幅に崩れる
200,147年前	meltia 85'0000。神々はフィーリアで暮らしていたが、寒いフィーリアには食材が乏しいため、フィーリアよりも温暖なガルヴェーユやアルヴァノスやルカリアに食材を求めて移住。第三世代を失って弱体化したユーマの一族をガルヴェーユから追放。サール系の血が強いマレット族はサヴィアへ、エルト系の血が強いシフェル族はファベルに移住。この時点ではマレットのほうがサールの血が強いが、後のルティアはエルトと神人貿易をしている→lanpit
同	ファルファニア人はアルファエル川流域で文明を作り始め、シージア人はセーレル川流域で文明を築き始める
同	神々は引越して土地を選んだ際、候補地について話し合うために便宜上、各大陸に名前をつけた（ファベルやアデントに住

	む計画もあったため)
約 20 万年前	ファベル人の集落が犬を家畜化。その後、牛、羊、豚を家畜化し、定住した。その結果密集して暮らすことになり、不衛生な環境で伝染病が起こった。ユーマの一族はウィルスの存在を知らないころから魔法（利の古代魔法で、ラルトと呼ばれた。現存するラルトは長い時間を経て意味が変わっており、このときのとは別のもの）でこれを治すことができたため、気にすることはなかった。しかし天然痘ウィルスなどは家畜を介して生き残った。ほとんどの集落は狩猟採集生活を続けていた
約 20 万年前	meltia 85'0000 ごろにはファベルでホモ・サピエンスが出現していた。ユーマの一族は自分たちに比較的似た知能の高い動物がいることに驚いたが、彼らは空も飛ばず魔法も使えない無力な存在だった。また、生活レベルも低く、容姿は醜かった。彼らは言語を操る能力があったが、その能力は地球の現代人と見劣りするものである。当然ユーマの一族から見ても劣悪なもので、ユーマの一族は彼らの言語を複雑な鳴き声程度にしか解していなかった。ユーマの一族とヒト（ホモ・サピエンス）は交配できないが、姿かたちはよく似ていて、遺伝子もよく似ている。免疫システムも類似しており、ユーマの一族がかかるものはたいていヒトもかかる。メルティア 85 万年ごろに両者が接触し、ユーマの一族からヒトへ天然痘などの病原菌が次々と感染。免疫も魔法も持たないヒトからヒトに飛び火し、絶滅。ネアンデルタールも既にホモ・サピエンスの手にかかっていたため、人型の生き物はアテンのみとなった
約 19 万年前	meltia 86'0000 ごろ。ユーマの一族の第八十八世代が死亡。2 万年生きる長寿の人類がアトラス上から消える
約 14 万年前	氷期（リス氷期）のピーク
約 13 万年前	温暖期のピーク
約 10 万年前	meltia 95'0000 ごろ。メルティア 95 万年ごろ、ファルファニア人の一部が食料と土地を求めてファベルからアンシャルへ入る。リュディア人はハーディレイ川流域で文明を築く。一方マレット人の一部はサヴィアからインサールとケヴェアに入る。前者は zg までにハーディアン、カルセール、メディアンを作る。後者は zg までにフッカ、ジュヴァルノ、メルモアを

	<p>作る。</p> <p>シフェル人の間で内戦が起き、ファルファニア人とリュディア人が争い、前者が勝利する。これを記念してファルファニア人はリュディア中心部周辺をファルファニア(falfania)と改名。リュディア人はリュディア国辺境、すなわち現アルバザードへ追いやられる。リュディアの一部は奪われてファルファニアと改名されたため、リュディア人は残った国土をレスティルと改名した。彼らは神がいるのでフィーリア、ガルヴェーユ、ルカリアには原則として住めなかった。その後元リュディア人の一部がアルディアルとスカルディアを作る。少数ながら神の土地に入り込んで住んでいた部族もいる</p>
約10万年前	ハーディアン、フッカ、ジュヴァルノ建国
約8万年前	サルディーン、カルセール建国
約8万年前	スカルディア建国
約7万年前	カルセールで魔法陣が開発される。
約7万年前	meltia 98'0000 ごろ。神々がさらなる食料を求めてガルヴェーユ・アルヴァノス・ルカリアからレスティルに移住。レスティル人の多くを追い出して住み着く
同	ティクノ、ポエンをレスティルの大地に寝せ、空から精子の雨を降らせる。ポエンが土と一体化し、直後に土からカルテ神を出産する。この時点ではまだ夫婦でなく兄と妹。カルテは農耕を司り、食料を司るようになり、農耕文化が始まる
同	天秤が使われ始める。後に秋の女神アリスが司るようになる
同	獣王ポエン、既にユーマの一族が家畜化していた犬を独自に家畜化し、この犬から puluut 神を生む
同	プルートは牛、羊、豚を集め、家畜化した。するとプルートの姿はそれらが混じった姿になり、牧畜文化がユーマの一族に遅れて始まる
同	クレーヴェル・カルテ、月の満ち欠けの周期を元にメルティア暦を太陰太陽暦に変える。(幻日 pal t 参照)

同	ティクノがミティクノを、カルザスがミカルザスを生む
約7万年前	アルディアル建国
約65000年前	〔言語〕 〔文字〕 ilhanoi が alhanon を開発→hac
約6万年前	メディアン、メルモア建国
約6万年前	〔言語〕 〔文字〕 メディアンに魔法陣とアルハノンが伝来→hac
約5万年前	マレット系メディアン人がスカルディアに流入
同	〔言語〕 〔文字〕 スカルディアに魔法陣とアルハノンが伝来→hac
50,148年前 meltia 999,999	<p>・ヴァステへの道程</p> <p>レスティルでメルティア100万年前の前年祭が神々によって行われる。この日は下弦の月で、ヴィーネが月に縛った悪魔シェルテスの番をすることになっていた。しかしアルミヴァが主催する祝賀に出席しないわけにはいかないため、代わりに娘のエスタに番をさせた。エスタはユーマの子として神の一族とみなされていなかったため、出席を期待されていなかったためである。</p> <p>不慣れなエスタが番と知ったシェルテスは月を脱走。エスタはこれを追うもあちこちへと逃げ回られてしまう。やがてガルヴェーユへ逃げたシェルテスはフランヴェールの泉に行くと、封印されたユーマを見つけてこれを侮辱し、エスタを辱めた。この行為により温厚なエスタの力が覚醒し、シェルテスを八つ裂きにする。</p>
同	<p>これに驚いたのは神でなく悪魔であった。アルマはフランヴェールの魔女の再来を恐れ、これを警戒した。ユーマに煮え湯を飲まされたアルヴァは自分たちで行くのが不安だったため、ソームを捨石にエスタの力を調べさせた。エスタはユーマを封じた悪魔を恨んでいるはずなので、戦わないという選択肢は採用されなかった。</p> <p>ソームはエスタの元へ行くも、父ヴィーネが娘を守って応戦した。これを知ったティクノは援護しようとしたが、計算高い</p>

	<p>カルザスはティクノにヴィーネ親子を見捨てるよう警告した。しかし実直なティクノは耳を貸さず援護し、ソームを追い返す。このときティクノはベーゼラットを入手するも、ミティクノを失う。</p>
同	<p>木星に帰ったソームは会議を開いた。冷静なヴェルムはあくまでヴィーネ親子が標的と主張した。パルトはティクノが参戦した以上それは現実的でなく、少なくともサールが標的と主張。一方、好戦的なベーゼルとイルヴァは結局のところサールも神なのでこれは神と悪魔の戦いだと主張。2票得たベーゼルらは多数決による決定を主張したが、全体の過半数にも達していないのに何が多数決かとヴェルムに却下される。</p> <p>これに業を煮やしたベーゼルらは単身クレーヴェルの元へ赴き、戦いをしかける。これを知ったカルザスは挑発に気付いてクレーヴェルに無視するように警告するも、プライドの高いクレーヴェルは応戦。義理堅いヴァルファントがセイネルスとともに援護に入る。こうなってはもう戦いは避けられないと察したコノーテも援護に入る。コノーテの参戦を受けてようやくカルザスも仕方なしに参戦し、ベーゼルらを追い返す。このときミカルザスが戦死。</p>
●vaste	<p>神と悪魔の戦争。終末から数えて50,147年前から始まり、9,823年間続く</p>
50,147年前	<p>meltia 1,000,000年。カルザスは戦争が避けられないと知り、ティクノに共闘を提案。ティクノはこれを受け入れる。神側はこの時点でヴァステ開戦の態勢に入った。</p> <p>ベーゼルらの勝手な行動を受け、ソームはやむなくヴァルテに報告。ヴァルテはアルヴァに戦争が避けられないことを上申し、ヴァステ開戦となる。</p> <p>皮肉なことにエスタがシェルテスを八つ裂きにできたのはクリスタルに入ったユーマのなけなしの加護によるものであり、エスタ本人の力ではなかった。しかし本人も悪魔も当時そのことに気付かず、ヴァステは開戦されるに至った。</p> <p>メルティアが teej を作り、悪魔らがアトラスに入る。</p>
同	<p>こうなったら鍵を握るのはユーマである。戦力で劣る神々はユーマの封印を解いて共闘を請うのが唯一の勝ちうる手段である。エスタがヴィーネについている以上、ユーマが神につくであろうことは明らかであった。そこでアルヴァはユーマの封</p>

	印を強化するため、ガルヴェーユへ赴いた。案の定封印を解こうとした神々を追い払うが、この場を離れるわけにはいかない。そこでガルヴェーユを本丸とし、その守備にアルヴァが当たることとした。一方ソームらには攻撃を担当させた。
翌日	サールは人間の作った国カルセールに本拠地を移し、深い山と森の地帯にヴェマという名を冠し、そこに住み着いた。ヴァルゾンが長に立候補するも、ポエンが唆し、諦めさせる。これによってティクノは速やかに長になる
同日夜	長決定の宴の後、ポエンはティクノを呼び出し、知略を用いてプロポーズをさせる
同日	一方エルトはレスティル北西に逃げ、ルカリア南西部（現ヒュート）に本拠地を築いた。長選びは難航し、カルザスとヴァルフアントが決闘することとなる
4日後	メディアン海岸にて両者が決闘を開始。サールのエイヴが生まれる
4年後	meltia 1,000,004年。両者の実力は拮抗しており、4年間構えたまま動けなかった。その間にヴァルフアントの剣が潮風で錆びたためカルザスが勝利し、長となる
meltia 1,003,568	クレーヴェルがデスパを生む
meltia 1,004,000	アルミヴァは戦略を立てるため、本からユルグを生み、会議をする
翌日	神々は myuul（当時は klendia）に陣取ったソームと戦う。神々は氷の魔法でベーゼルを倒すも、ベーゼルのセレスはチームのもとへ行く。神々は隠れてこれを観察
1004004	ベーゼルが復活して出てくる。チームスは倒せないということを知り、会議を始める。そこにデスパが現れ、チームスを殺すのではなく封印すればよいと提案
1,004,000 年代	再三ソームが神々と戦う。神々は防戦一方で、デスパをかける余裕がなかった。激しい戦いでテージュ下のクレンディア大陸は破壊されミュールと名を変え、土地を失った神々は後半500年間アルカット南岸でソームを迎え撃った。しかし南岸

	も破壊され、神々は徐々に東へ前線を移していった。およそ1000年続いた戦争の結果、アルカット南岸は挟られていった
1004998	神々はソーム本拠地への攻撃を決意。ミュールへ。最初にカルザスとコノーテがデSPAに成功し、ベーゼルとエルヴァを封印する。一方、ティクノとポエンはヴェルムとパルトを封印する。次に神々はテーヴェを封印。その後、逃走したサティを探すと、小さな星で寝ているのを発見。一斉に魔法を撃ち、これを封印。最後にイルヴァを封印し、ソームに勝利した
1005000	ミダンとヴェンシートはアゲイトに陣取っていたが、ヴァルテがvasteにあまり賛成していないため、なるべく交戦を避けていた。ソームが倒れたことで仕方なしに前線に出る。デSPAを発見し、最終的にそれが何か勘付くが、確信がない。そのときコノーテがヴェンシートを奇襲。戦闘が始まり、悪魔は神々を圧倒するが、最後は罠にかけられ、ミダンとヴェンシートは互いに自分の技を当ててしまい、弱ったところを封印される
1005001	ミダンとヴェンシートを失ったヴァルテは怒り、アルカンスで雷の魔法を撃つ(→arkans)。神々はこれを恐れて逃亡する
1005578	<p>悪魔もまた駒を進めており、ミダンらが封印されたところにはユーマの封印の強化が終わっていた。これでアルヴァが攻撃に転じられる。悪魔の勝利は決まった。だが神々は悪魔よりも強かだった。</p> <p>賢者ユルグは悪魔ほどのヴィードをもったアテンを回復できる環境は一体何だろうかと考えた。ふつうのアレットでは不十分であろう。さらに悪魔の使う強大なヴィードのエネルギー源はどこから来ているのだろうと考えた。そこでユルグはソームなき今無人となっている木星に入り、調査を始めた。すると莫大なヴィードを蓄えたクリスタルを多数発見。これが悪魔の戦力を底上げしていたのだと知る。</p> <p>しかしユルグの侵入に気付いたヴァルテがこれを攻撃。ユルグはほとんどクリスタルを確保できず、命からがら逃げる。</p> <p>ユルグが持ち帰ったクリスタルにより、各惑星にクリスタルがあるだろうことが神々に知れ渡った。攻撃に転じられるはずだった悪魔は自らの住処を守らねばならなくなり、防戦を余儀なくされた。</p> <p>ヴァルテは木星のクリスタルを運びたかったが、ユルグの報告を受けた神々がすぐ留守の冥王星に行くだろうと踏んだため、持てるだけ持って木星を去った。クリスタルは大地に根付いて効果を持つものも多いため、すべての星のクリスタルをひとつの星に集めて攻防2チームに分けるといような戦略は取れなかった。</p>
同	神々がテージュを通過して冥王星へ行き、ヴァルテを奇襲。ティクノが魔杖ヴァルデを得、ヴァルテを封印する

1006021	神々がテージュを通してニムラとフレスティアのいる土星に行くも、大敗する
1006566	ユルグに作戦を聞き、再戦する。インプラ、ホーラ、テクラ、プスホーラの順に封印する。カルザスはセルティアを得、フレスティアを封印する
1007049	ブレイスは天王星を、クレートは海王星を住処としていた。神々が天王星に攻め込むと、クレートは速やかに天王星に来て、ブレイスを守った。知略を用いて戦うも、神々は敗退
1007573	ブレイスとクレートと再戦し、クレートをまず倒し、その後ブレイスを封印する
1007999	カルザス、来年産まれる自分の子供の命名をさせるためにアイムルを生む
1008000	エルトは現ヒュート、サールは現ヴェマで束の間の休息を楽しんでいた。この年、エルトにダルケスとルフェル、サールにアルデスとフェルデンが産まれる
1008257	神々はレスティルで軍事会議を開く。このときダルケスとフェルデンが会い、恋に落ちてフェールが生まれる。一方アルデスはルフェルに王の器を感じる
1008561	ヴァルゾンがテージュを見張る中、キルセレスがティーナを狙ってレスティルに現れる。ヴァルゾンはキルセレスを騙すも、結局キルセレスはティーナを改めにアルミヴァを探し出した
同日	ティーテルはキルセレスの邪気を感じ、ティクノの元へ逃げる。ティクノは外出し、キルセレスと出くわす。キルセレスにヴァルゾンの嘘はバレており、戦闘開始。ティクノは斬られ、逃亡。キルティクノを得る
1008562	キルセレス、ヒュートでヴァルファントと戦闘。その最中、カルザスが城から出てくる。カルザスは斬られたが、キルセレスを追い返した。カルザスはキルカルザスを得る。結局キルセレスはティーナの居場所が分からず、悩んだままこれ以降アルディアまで眠り続ける
1009047	神々は太陽の元に行き、アルマと戦うが、大敗

1009500	神々はアルマと再戦し、これを封印する。封印が十分でなかったため、アルマディオでさらに封印する
1009823	神々は太陽の裏側にいたチームスと戦い、これを封印。かくして神々は悪魔に勝利した
同	テージュを通過してアトラスへ帰り、既に海へ沈んだミュールを北上し、現カテージュに着いたところで、ベルトとメルティアに会う。メルティアは悪魔の敗北を宣言し、テージュを閉じるとともに停戦を申し出た。神々はこれを受け、テージュを封じさせた
同	もともと険悪なエルトとサールは共通の敵を失った結果、ヒュートとヴェマへ別れ、袂を分かった
●saria	神々の休息。meltia 1,009,824~1,030,031
1009824	エルトはヒュートを本拠地としてアルカットに住み、サールはヴェマを本拠地としてインサールに住んだ。ユーマの一族は既にアルカット中に拡散していた。神の一族は少人数だがかつては農耕や牧畜をしない狩猟採集生活だったため、何万年も生きていくには広大な土地が必要だった。しかしレスティルに住んでからは農耕と牧畜を覚えたため、非常に限られたスペースで満足に生きることができた
1009928	ルカリア（現ヒュート）に住むルカリア人は上等な飛竜を飼いならしており、飛竜を用いた交易をしていた。種類の豊富なユーマの一族の商品に興味を惹かれた神々は、ルカリア人に供物を捧げるよう要求した。これに困ったルカリア人はすぐに態度を決められないと時間を引きのばしてきた。神々は無傷で商品を得たかったため、ルカリア人に4年間の猶予を与えた
1,009,932 年夏	ルカリア人は供物を捧げることを拒否。温厚なコノーテはあくまで交渉ルートで話を運ぼうとした。しかしプライドの高いクレーヴェルはかつて少女ユーマに逆らわれたことを根に持っており、神を愚弄したとしてユーマの遠い子孫であるルカリア人の外交官を見せしめに処刑
同秋	ルカリアはレスティルと同盟を結び、エルトとの交易を拒絶。攻撃を受ければエルトに報復すると宣言。まだユーマの一族の力が強い時代であるため、神々もおいそれと手を出せない状況であった。エルトは無傷でいたいと思っていたため、供物

	でなく交易で構わないという旨を伝えた
同冬	冬のルカリアは不毛で、たびたび食糧難に襲われる。交易品への需要が高まり、レスティルとの交易が始まり、神々もこれに参与する。商品の代わりに神々は有事の際の軍事力となることを約束。こうしてルカリア・レスティル人は傭兵として神の加護を得、周辺諸国に対する軍事力を強めていく
同	職業翻訳家が台頭し、貿易商人となった
1009933	エルトの話を知り、ヴェマでもサールがユーマの一族と交易を開始する
同	交易の都合で人里と神の町の間で交易者たちの村ができていく。飛竜で交易をしていたルカリアは、飛竜の休憩ポイントとなる山間部ごとに点的に栄えていった。ヴェマは森林地帯なため、サールの本拠地の周辺で交易者の村ができた
1,010,000年代	メルティア 101 万年代は特に大きな争いもなく、ユーマの一族の寿命もまだ現在よりはずっと長く、緩やかに時が流れていた。このころに起こった大きな変化は、交易者の村で神々とユーマの一族の混血児が生まれたことである。このころはユーマの一族は神性をかなり失っていたため、神とユーマの一族の差は artem より明瞭になっていた。その状況で生まれた半神半人の混血児は、神々よりは脆いがユーマの一族よりは強いという性質を持っていた。神々は彼らを完全な神の子として認めることはなかった。つまり、ティクノの息子のアルデスのような存在とは認めなかった。逆にユーマの一族も混血児をユーマの一族と認めることがなかった。明らかに神ともユーマの一族とも性質が異なるためである。このようにして生まれた混血児は lozet (亜神) と呼ばれ、交易者の村で暮らした
同	〔魔法〕 結界がカルセールとメディアンで作られる→despel
1,020,000年代	サリア後半は、ロゼットの時代である。ロゼットは神がユーマの一族と交わることで増え、またロゼット同士が結ばれることでも増えた。彼らは徐々に交易者の村から出て、ルカリアやレスティル、カルセールやメディアンに散っていった。彼らは神ほど強力ではないがユーマの一族よりは強力なため、半分神な存在としてユーマの一族に畏怖され、逆に神々からは自分たちに親和性のある扱いやすい兵とみなされた。この考え方が後のラヴァスでロゼットが主な戦死者となった理由である
同	個々のロゼットはユーマの一族より強かったが、数が多くなかったため、ユーマの一族を追い出すほどの力は持っていなかつ

	た。ところが2万年かけて徐々に数を増やしたため、15,000年を過ぎたころから徐々に勢力を強め、よりよい土地を求めてユーマの一族と争うようになった。ユーマの一族は住みよい土地を奪われ、山間部や森の奥深くへ追いやられた。この結果、ユーマの一族は森を切り開いたりトンネルを作ったり、いちいち飛ばなくてもいいように橋を架けたりといった建設・開拓技術を洗練させていった。なお、ロゼットとは常に険悪だったわけではない。ロゼットにも村や部族がたくさんあるため、一部のロゼットとは交易を行っていた。また、同盟を組んで互いに別のロゼットの集落と戦うようなこともあった
1029892	メディアン・スカルディア国境で銅山の採掘権を巡ってエルト側のロゼットとサール側のロゼットが衝突
1029893	両陣営の小競り合いはこれまでもたびたび起きてきたが、いずれもローカルな争いで終始していた。しかしサール勢がスカルディアの外交責任者を暗殺したことで銅山問題は混迷化し、スカルディアとメディアンの争いに発展した
1029895	スカルディア・メディアン戦争を仲裁するため、エルトとサールがレスティルで会談する。神々は和解案を出し、ロゼットらに停戦を命じる
同	アルデスら4人は王の候補として会談に同席。ここで美しく成長したダルケスとフェルデンが再会し、激しい恋に落ち、内通するようになる
1,030,031 末	ダルケスとフェルデンの内通が発覚。彼らは駆け落ちし、城を飛び出す
●cavas	エルトとサールの戦い。meltia 1,030,032~1,040,000
1030032	ティクノらはダルケスの討伐をアルデスに命じ、カルザスらはフェルデンの討伐をルフェルに命じた。ダルケスはアルカンスでアルデスと戦い、戦死。アルデスがダルケスをセレスティアする。それを恨んだフェルデンがルフェルにセレスティアを願い出て、ルフェルはフェルデンの首を泉で刎ねる。ルフェルは兄を殺された恨みでアルデスを攻撃し、アルデスは逃亡。この事件がきっかけで険悪だったエルトとサールの間に遂に戦いの火蓋が切って落とされた

1030033	エルトもサールも一族すべてをまとめ上げる王がおらず、戦争をするには一枚岩でなさすぎた。そのため、まずアルデスとルフェルは一族をまとめ上げて王になることから着手した
1030034	ヒュートはヴェマほど肥沃でなく、ルカリア交易に依存する割合が大きかった。サールにはカルテ神がいるので、食糧問題は少なかった。そこでルフェルは安定した農作物獲得のため、木々から年の前半の女神アシュテを生み、畑の土から年の後半の女神アリスを生み、万世の豊穡を命じた。これを知ったアルデスは対抗心を燃やし、陽炎から女神フレアを生み、雪から女神シエルを生み、それぞれを夏と冬の司にし、アシュテとアリスを分断させ、仕事が巧く回らないようにした。こうしてアシュテは春の女神になり、アリスは秋の女神になった
1030192	ルフェルはルカリア交易の要所、ヒュート東南部に位置するケートに、自分の息のかかったロゼット軍を送り込み、制圧させる。表向きロゼットの侵略と見せかけ、ケート人を追い出す。ロゼットにルカリア交易を管理させ、エルトに有利な条件で貿易を進めた。ケートのロゼットは輸入元であるアルディアルやレスティルに重い関税（貨幣がまだないので物資やコモディディの交換レート进行操作して事実上の関税とした）をかけ、その利鞘の一部を着服しながら残りの利鞘をルフェルに渡した。ルフェルはロゼットを手厚く擁護し、ルカリア交易を手中に収め、エルト内での地位を高めていく
1030535	アルデスは誰が王になるべきか戦で決めようと持ちかけ、我こそはと思うものすべてをヴェマに召集し、トーナメントを持ちかけた
1030539	トーナメントが開かれ、アルデスが優勝し、王位に就く。アルデスはヴェマを王都とし、ロゼットを国民として扱ったが、そこにユーマの一族は含まれなかった
1030782	ルフェルが貿易で付けた経済力を背景にエルトをまとめ上げ、エルトの女王になる。これによりルフェルは全権を委任される。ルフェルもまたロゼットを国民としたが、ユーマの一族は外国人として扱い、一定の居住は認めるものの、国民としては扱わなかった
1,031,000 ~4,000	1000年を区切りとしてルフェルがアルデスに改めて宣戦布告。スカルディア・メディアンが前線となり、ロゼットによる前哨戦が始まる。ここから2000年間の争いはほぼスカルディア・メディアン国境線沿いで行われ、カルメディ戦争と呼ばれた

1033000	ロゼットの小競り合いは細々とした国境線の変動を引き起こしたものの、大幅な戦況の変化はもたらさなかった。スカルディア東部、メディアン西部は度重なる戦闘で焦土と化した。もともと砂漠の多い地方だったが、戦災によってますます砂漠化していった
同	膠着状態が続くカルメディ戦争に神々は業を煮やしていた。ロゼットだけでは埒が明かないとルフェルがエルトを送ると、負けじとアルデスもサールを送り、膠着が続く。かといって総大将の自分がのこのこ城を空けて出て行くわけにもいかない。また、仮に出たところで一騎打ちをしても相打ちかルフェルの辛勝になるだろうことが予想されるため、そうやすやすと出ることはできなかった。そこでエルトとサールはどうか互いを出し抜こうと知恵を絞った
1033642	ティクノとポエンの間にテュアが生まれる
1,033,645 ~896	ルフェルはアルデスが幼いテュアを守るので手一杯な状況を利用し、カルメディ前線を攻略。押されていた国境線を東へ押し戻していく
1033897	早熟なテュアが成熟し、アルデスとの間に4人の子を設ける。アルデスは子供の世話をテュアに任せ、ルフェルに押された国境線を西へ戻していき、ふたたび戦況は膠着する
1,034,000 ~ 1,034,877	アルディアル戦争。アルデスは膠着したカルメディ戦争の終戦を宣言し、新たな局面に入ったことを宣言する。アルデスは3人の子供ジンティ・アッティ・トゥッティを率いてアルディアルを強襲する。戦争経験の乏しいアルディアルはスカルディアより手薄で、アルデスの3人の息子も強力だったため、ルフェルの派遣したエルトはことごとく敗れ去った
1034878	アルデス、アルディアルの征服を宣言
1035023	アルデス、遂にルカリアに侵入。ルカリア交易の要所であるケートを目指し、西進
1036128	アルデス、ケートを占拠。ルカリア交易を打ち切る
1036896	アルデス、本拠地ヒュートを目指し、西進。エルトは戦慄する
1037575	アルデス、ヒュート南西部まで軍を進める

同	ルフェルが被災地エルフレインを訪れ、ロゼットの少女である姉妹フレイヤとミレットを見つけ、従者とする
1037580	ルフェルはエルフレインの姉妹が類稀な才能を秘めていることに気付き、戦闘訓練をさせる
1037921	ルフェル、エルフレインの村の奪還を目指し、エルフレインの姉妹を投入。姉妹はルフェルを凌がん戦闘力で活躍し、あっという間にアルデスの子らを撤退させる。ルフェルとアルデスはほぼ互角だったが、エルフレインの姉妹とアルデスの子らだと、前者のほうが圧倒的に強かった。この戦功に対する褒美としてルフェルはエルフレインの姉妹をエルトとした
1038052	ルフェル、エルフレインを率いてケートを奪還
1038664	同、アルディアルを奪還。続いて東へ駒を進める
1039002	フレイヤはサルディーン南部からカルセールに攻め入り、ミレットはカルセール西部から攻め入り、サールのロゼット兵を次々と破っていく。防戦一方のサールは戦慄し、策を練る
1039000 頃	カルセールヴェマを本拠地とするサールの勢力が弱くなったことで、周辺諸国へのヴェマの影響力が低下する。この結果、東洋諸国特にヴェマから離れた地域において独自の文化が育つ土壌ができる。特に大陸の東端で防衛に適したハーディアンでは人の往来も少ないこともあり、閉鎖的な環境の中で独自の文化が華やいでいった。ハーディアンの最初の国風文化である。
同	<p>〔言語〕 〔文字〕 ハーディアンは神との繋がりが弱く、神の筆記用具がヴェマ以上に手に入らなかった。人々は甲骨などに文字を刻んでいた。線種の多い幼字は刻むのには適しておらず（甲骨などに星型や三角や丸を器用に刻むのは難しい）、幼字の形は徐々にハーディアン建国以降簡略化され、線形化していった。</p> <p>このころまでに既に文字は線形化され、直線を主とする字体ができていった。線形化に併行して幼字にはない文字が多く作られ、独自の文字を形成するに至った。これを極字という。</p>
1039573	アルデスらはエルフレインの村によく似たアルタの村に姉妹を誘い込み、あえて破壊させる。しかしアルデスは撤退せず、焦土と化した村に隠れ込んだ。姉妹は不審に思うも村を探索する。すると、そこで巻き添えを食らったロゼットの姉妹を見つける。彼女たちはアルデスらが用意した生贄で、エルフレインの村が破壊された当時の姉妹によく似た少女であった。エ

	ルブレインの姉妹は目の前で死んでいく彼女たちを見て、ルフェルに洗脳されてきた聖戦思想を失い、自分たちの行いは蛮行なのではないかと疑念を抱くようになる。これにより、激しいサールへの恨みの感情が減り、姉妹は急激にヴィードを失い、アルデスの3人の子と同じ程度の強さになる
1039786	アルデスはカルセールとサルディーンからエルトを追い払い、ふたたびラヴァスは膠着状態を迎える
1039999	ルフェルとアルデスはアルカンスで会談をし、膠着化した戦争に終止符を打ち、ラヴァスを終戦させた
1040000	yuuma 0。神々は生き残ったロゼットを連れ、神界アルフィを創造し、そこへ去る
●azger	西の民シフェルと東の民マレットの戦い。Yuuma 0~4,000 前期アズゲル、千年の冷戦、後期アズゲル——の3部に分かれる。
yuuma 0	神とロゼットが去ったことでルカリア交易はふたたび人間の手に返り、ルカリア貿易と称するようになる。当時の人口はロゼットが約2731万だったのに対し、ユーマの一族は4239万人もいた。そのため、貿易事業のマーケットサイズは急激に膨らんだ。ルカリア交易時代は進物の代わりに軍事力を得ていたため、貨幣の必要性はなかった。また、人間同士の交易も物資の交換で、貨幣はなかった。金による交換もあったが、この時点では金は貨幣ではなく、コモディティのひとつであった
同	神々がいなくなったことで、王座を狙って各豪族間で対立が起こる
yuuma 23	ルカリアでは、ケートに居住してロゼットの下働きをしていたギルケート族が貿易で経済力を強め、各部族をまとめ上げる
yuuma 56	アルカンスでケートと友好的な交易関係を結んでいたレスティル人のヴェルディア族が、ギルケートと同盟を締結。アルカンス貿易の経済力とギルケートの軍事力を背景に、ヴェルディア族の長シフェランがレスティルの王となり、アルカンスに王都レスティリアを建てる
yuuma 113	ハクシウス族がヒュートの領有権を得、軍事的に台頭
yuuma 146	ハクシウス軍が飛竜兵を指揮してギルケートに侵攻

yuuma 149	ギルケートは降伏し、ハクシウスがケートを占領
yuuma 150	漁夫の利を得る形でヴェルディア軍がケートに攻め入る
yuuma 152	ヴェルディア軍は勝利し、ケートを含む現ケートイア周辺の領土を占領。ケートはレスティル国のものとなる
yuuma 153	戦争続きでルカリアからの貿易が滞ったため、エルトが占領者ヴェルディアに厳重注意をする
yuuma 172	ケートの奪還を目指し、ハクシウス軍がケートに侵攻。しかし貿易がふたたび滞ることを嫌がったエルトはヴェルディア軍についた
yuuma 173	ハクシウスは遺憾に思い、神々への貿易を打ち切る。しかしこの短絡的な報復をヴェルディアに逆手に取られてしまう。アルフィへの経済封鎖にレスティル国は当然賛同せず、かえってヴェルディアは神人貿易の売り上げを増やし、神の恩恵を篤く受けることとなる
yuuma 254	ラピシア族がヴェマを占拠し、東洋の神人貿易の運営を握る
yuuma 293	シレジア族がシージアを占拠し、長のマレティスが王位に就く。シレジアはシージアの天然資源をエルトに輸出した
yuuma 321	ユーマの一族は飛べたため、船の必要性を感じなかった。しかし飛行しながら多くの荷物を運搬するのは多大なヴィードを必要とし、労力がかかる。そこでアクオリアと貿易を始めたマレティスが、運搬に便利な船を開発。風と水の魔法を駆使して難破を防ぎ、大量の荷物を一度に運んだ
yuuma 346	マレティスはリディア国の占拠を狙ったが、各地の豪族を攻略するのに苦心していた。特にリディアで最も有力なカディア族には手を焼かされていた。マレティスはラピシア人と同盟を結び、天然資源をラピシア人に売った。サールがシージアの天然資源をほしがったが、シージアはエルト派なので手に入らない。そこでラピシアが間に入ることで全員の面目が立つという状況であった。このラピシア貿易によりシレジアは力を付ける
yuuma 440	封印の衝撃により意識を失っていたチームスの意識が戻る。封印の檻から出ようと暴れ、蠢動を開始。この衝撃でメルティアが仮止めして不安定だった空間のテージュにふたたび穴が空き、同時にチームスが maltia をして新たな命を生む。このアテンはチームスの体からこけらのようにこそげ落ち、テージュを通してアトラスへ降り立つ。茶色が地色で黒と白の

	<p>まだらが混じった鱗のような形で、アトラスに降り立つと、アトラスの環境に合わせて100種の身体性を形成した。あるものは人型になり、あるものは動物型になった。これがアデルである。このとき生まれたアデルは知能の低いものが主体で、動物的であった。</p> <p>神はアデルがアルフィでなくアトラスに降りたため、アトラスの恐慌は対岸の火事であった。それよりもチームスの復活のほうが脅威であり、もし復活すれば今度は確実にアルフィへ侵攻してくる。そこで神々はチームスの封印を強化し、テージュも強く塞いだ。これによりアデルの産出は止まったものの、アデル自体はアトラスに残存した。</p> <p>このとき流入したアデルはミュールを中心に分布した。ミュールはvsで島の集合になって以来、広大な農地もなく山も崩れやすい。また、地理的に台風も多い。そのため住み着く民族がほとんどいない状態で、容易に魔族に支配された。</p>
yuuma 593	ラピシア貿易で力をつけたシレジアはシージア国内を統一。豪族をすべて支配する
yuuma 645	魔族レプトールが falfania で大繁殖し、ファルファニア人は大打撃を受ける
yuuma 647	レプトールの駆除に追われて疲弊した隙に乘じ、ヴェルディアがファルファニアに侵攻
yuuma 648	ファルファニア、ヴェルディアの支配地に
yuuma 729	シージアがカディアに侵攻
yuuma 740	スカルディアでダイズアイライが大量発生。スカルディア人に大打撃を与える
yuuma 743	荒廃したスカルディアにヴェルディアが侵攻
yuuma 744	スカルディア、ヴェルディアの支配地に
yuuma 753	シージアがカディアを降伏させる。マレティスはアルカットの監視をする必要があり、直接南へ下ることに抵抗を示し、進駐軍を置いて間接的に支配した
yuuma 794	支配地が広がったことで貿易商品のラインナップが増え、コモディティの交換だけでは不便になってきた。そこでシフェランは物の価値を金の量で測ることに定め、金を加工して小さなコインにした。コインには文字を刻み込み、シフェランがこ

	の価値を保障すると約束した。金貨の登場である
yuuma 802	遅れてアルディアルをサラ族がまとめる。ルカリアと友好的な貿易関係が続ける
yuuma 823	金貨の信用力はまだ弱く、ようやくこのころ商人の間で広がり始める
yuuma 870	金貨が下請け企業に流通しはじめ、経済活動が活発化する
yuuma 882	大商人が金貨で下請け商に支払いを始め、金貨が徐々に浸透していく
yuuma 890	マレティスがシフェランをまねて金貨を作る
yuuma 911	マレティスはカディアを前線都市とし、リディア国に残った豪族を平定しおわる
yuuma 924	下請け商に勤める奉公人（前回は下請け商自身）が金貨で給与を得るようになり、一般人にも貨幣が浸透する
yuuma 951	レスティリアにて世界初の銀行ができる
yuuma 1000	マレティスはリディア国から進駐軍を撤退させたものの、リディアは事実上の植民地として扱われた
yuuma 1066	遅れてサルディーンをファラン族がまとめる
yuuma 1112	マレティス、リディアから派兵し、フッカを支配
yuuma 1201	シフェラン、レスティル・スカルディアから派兵し、アルディアルに侵攻
yuuma 1226	シフェラン、アルディアルを支配。ルカリアを孤立させる
yuuma 1299	マレティス、ジュヴァルノを支配
yuuma 1365	シフェラン、ルカリアに侵攻するも、イネアートにて敗北
yuuma 1389	イネアート戦線の大敗により、王都レスティリアの銀行で取り付け騒ぎが起こる。金貨のストックが足りず、国は後で金と換えられる紙幣を刷る。紙幣を大量に刷ったせいでインフレが発生。物価が上がると紙幣に対する金貨の価値が上がり（商

	人が紙幣の受け取りを拒否したり、期日までに紙幣が金に換えられるかという信用リスクが高まったため)、紙幣と金貨が等価でなくなった(=金との引き換え券としての価値を失いだす)。これにより市場での紙幣による売買成立はさらに減り、実質紙幣は国債と化した。
yuuma 1401	インフレに耐えかね、政府はデノミを敢行。国債となっていた紙幣は紙くずとなった。レスティルの紙幣は国外でも保有されていたため、初の世界恐慌が起こる。同時に金貨の価値は急激に上昇し、唯一の貨幣として見直された。
yuuma 1466	マレティス、ヴァルハノイを支配。サヴィアを統一する
yuuma 1587	シフェラン、ルカリアに再度侵攻し、これを破る
yuuma 1602	ルカリア辺境で大規模なインフレが起こる。ルカリア暫定政府は大量の国債を発行。ルカリアの復活を支援するグループから主な援助を受ける
yuuma 1627	しかし経済は持ち直さず、ルカリア暫定政府は国債をデフォルトし、コモディティでの納税をさせた
yuuma 1636	ルカリア辺境からレスティルへの亡命が相次ぐ中、暫定政府は預金封鎖を行い、あわせてデノミを行った。国は荒れ、それでも歳出のほとんどを軍事費に充てるという凄惨な状況となった
yuuma 1678	シフェラン、ルカリアの暫定政府を倒し、地方豪族らを平定。アンシャルを統一する
yuuma 1680	マレティス、メルモア西部を支配
yuuma 1721	マレティス、メルモア東部を支配
yuuma 1755	マレティス、メルモア南部を支配。ケヴェアを統一する
yuuma 1892	マレティス、ハーディアンを支配。アルカットに侵攻したことで、インサールのみならずアンシャルも騒然となる
yuuma 1955	シフェラン、スカルディアを足がかりにメディアン西部を平定
yuuma 2002	ラピシア、シフェル系ハーディアン人と協力してメディアン東部を支配。資源の一部を渡すことを条件に、ハーディアン人

	を雇って勝利した
yuuma 2098	ラピシア、メディアン東部に流入したマレット人に国籍を与える法律を制定。マレットとシフェルの婚姻が許可され、混血が公然と行われるように
yuuma 2107	ラピシア、マレットの軍事力を背景にサルディーンを支配。マレットに居住権を与え、混血化が進む。アルカットに入ったマレットは徐々にアルマレットを失っていき、西洋魔法化していく
上下間	大勢力のシフェランとマレティス（+ラピシア）の領土が境界線を共有したため、両者ともおいそれとは手が出せず、両雄睨み合いの冷戦が起こる。冷戦中は戦闘がほとんど行われず、アズゲル前期はこれにて終わり、長く——しかし緊張を伴った——平和に入る。以降3619のシフェランによるメディアン進出までの約1600年間、東西は小競り合いのみが続き、大きな争いは起きなかった。ただし3619の侵攻の背景にあったメディアンの内戦といったような対立は冷戦期間にもあり、この内戦ではシフェル系とマレット系のメディアン人が対立している。
yuuma 2120	シフェラン、冷戦の中、内政を強化するために veldian 帝国を建国。属国の統制を強固なものに。シフェランは初代皇帝となる
yuuma 2125	マレティス、シフェランに呼応して silezian 帝国を建国
yuuma 2129	〔言語〕 〔文字〕 ベルト会談。400のベルト幼字ができる。その読みとして響字ができる→hac
yuuma 2133	〔言語〕 〔文字〕 節字ができ、極字のルビとして用いられるようになる→hac
yuuma 3529	<p>テムスガが再び蠢動を開始。アデルが maltia され、空間に穴があく。テージュは神々が強固に塞いだため、別の弱い空間だったスカルディア西南部の地方バルマーユ上空に穴が空き、アデルがふたたび降り出した。この穴はバルマーユと呼ばれるようになった。</p> <p>このとき降ってきたアデルは竜族のような強力なものや精霊族のような知能の高いものの比率が多かったため、後者が社会を形成し、人類と対立した。スカルディアは人類の支配が確立しているため、魔族の村を作る程度が限界であった。</p> <p>魔族はスカルディアを中心に拡散。総じて言えば分布は南北より東西のほうが速やかかつ広大であった。北への移動は気候</p>

	<p>の変化を伴い、つらい。南への移動はそもそも陸がない。これに比べて東西はアルカット大陸が東西に伸びた陸塊であることから容易であった。とはいえ個々の種については身体性の違いにより、それぞれ得意な気候があったため、逆に南北に早く分布したものもいる。精霊族や妖精族は寒冷地を好むため、北への移動がほかの魔物に比べて速やかであった。</p> <p>ここで拡散した魔族は後に belgand や velxion を建国したり、anje のような海賊になったりした。</p> <p>アデルの言葉については belgandren 参照。</p>
yuuma 3586	バルマーユ人はアデルの対応に追われたが、逆にアデルの一部を飼育することに成功
yuuma 3591	シフェランがバルマーユを視察。その際、飼いならされたアデルをバルマーユ人に見せられ、驚嘆する。シフェランはアデル遣いを兵科に取り入れることを決意。訓練を開始する
yuuma 3606	<p>バルマーユから広まっていった魔族がミュールへ入る。土着の魔物は知能の低いものが多く動物社会を形成するにすぎなかった。今回入った知能の高い魔族は人類の少ないミュールを好都合と捉え、ここに belgand 共和国を築いた。最初にできた国は王国となるイメージがあるかもしれないが、人間と違って魔族の集まりは異なる種の集まりであり、その点を考慮せねばならない。belgand は多種多様な魔族の集まりで、知能の高いヴェイガン・エルヴェイグ・エリアンが主に支配階級にいた。彼らは各種族の代表からひとりの執政官を選んで共同統治をさせるという政治システムを採っていた。</p> <p>belgand の領土はミュールと現カテゴリーで、カテゴリーは少数派だが個々では力の強い liant, lilm, galfrei, libeeze などの魔族が多い。ごく少数だが ver lans なども存在する。またここにも veigan は多い。カテゴリーでは混血が多く、魔人が多い。</p>
yuuma 3612	シフェラン、バルマーユ人の中から竜族を飼いならした竜騎兵を編成する
yuuma 3614	メディアンで ademina が大量発生。農作物を荒らし、家畜も犠牲となった
yuuma 3615	メディアン国内ではシフェル系メディアン人とマレット系メディアン人が暮らしていたが、マレット人の多くは移民で土地や手工業の工場がなかったため、金融を営んでいた。ademina 恐慌で食料を得ることができた少数派マレット人にメディアン人の不満が募り、打ちこわしと虐殺が起こる

yuuma 3616	マレティスはメディアンのマレット虐殺を強く非難。これに対してメディアンは革命軍が政権を握り、真っ向から対立
yuuma 3618	マレティスはラピシアと合同で新政府軍を討伐開始
yuuma 3619	連合軍は新政府軍を討伐。しかしそれを狙ったかのように竜騎兵を率いたシフェランにメディアン西部を奪われる。シフェランはメディアンをメティオと改名
yuuma 3620	シフェランは破竹の勢いで北方に攻め入り、カルセール西部を制圧。ユクレシカを建国。カルセール首都ヴェマは国家名となる
yuuma 3621	ヴェマのラピシア族はマレティスにハーディアン国からの援軍を求めるも、竜騎兵を恐れたハーディアン国は余裕がないとしてこれを黙殺。竜騎兵はヴェマに進軍
yuuma 3626	防戦の末、ラピシア族は降伏を宣言。難民はヴェマ北西部に逃れ、リーシアを建国。ヴェマの土地は小さくなった
yuuma 3630	シフェランはヴェマにラピシア族による暫定自治政府を置く
yuuma 3631	マレティスはハーディアンの守りを固めた。その結果、メディアン（既にメティオが建国されているので旧メディアン東部を指す）での影響力は弱まり、移住者である少数派マレット人は煽りを食らい、一部は追い出されるようにしてハーディアンに入り込む
yuuma 3632	メディアンでマレット人迫害が激化する。マレティスの影響力が減ったこと、ヴェマが侵攻されたときにマレティスがハーディアン国から援軍を出さなかったことが原因であるが、メディアン人（ラピシア族がほとんど）の本音は金融業を営んでいた一部の裕福なマレット人の財産を没収したかったため
yuuma 3633	宗主国だったヴェマを 3626 年にシフェランに奪われて以来、ラピシア系のメディアンは財政難に喘いでいた。マレット人迫害で得た財産では到底持ち直さず、社会情勢は年々悪化。そこで地域ごとに次々と自治政府が起こっていった
yuuma 3635	ヴァルマレアが独立
yuuma 3636	メディアンからユベールが独立を目指す。ヴェマの暫定自治政府に邪魔をされる。しかしラピシア系列の解体を促し、後

	顧の憂いをなくそうとするシフェランはユベールを援助
yuuma 3638	ユベールが独立
yuuma 3639	同様にシフェランの力を背景にマイナが独立
yuuma 3642	同様にユロが独立。ユロは援助を引き換えに、シフェランの軍の基地を置くことを認め、同盟国となった
yuuma 3646	同様にヒュグノーが独立し、前線基地となった
yuuma 3650	シフェラン、ハーディアン国のアルティア都市と同盟を結び、不可侵条約を締結。ハーディアンの首都ロロスはこの裏切りを遺憾としたが、内戦をしている余裕はなかった
yuuma 3651	シフェラン、ユロからハーディアンに進軍
yuuma 3655	シフェラン、首都ロロスを陥落。ハーディアン人は北の都市フィギットへ撤退し、フィギット国を建国
yuuma 3656	西へ散ったほうのハーディアン人がヴェマのヴォザモ地方に入り込み、混血する
同	シフェランは同盟の見返りとしてロロスをアルティア人の支配地とさせる。その代わりに自分に有利な関税をかけた。この結果ハーディアン、特にアルティアの国力は高まり、極字開発に次ぐ国風文化の兆しを見せる。
yuuma 3658	<p>〔言語〕 〔文字〕 この時期に豊かな国力を背景に国風文化を誇る風潮が高まり、文学などの余剰な学問にも注力する余裕が生まれる。ルビとして用いられていた節字の崩しはこのときまでに幾種も存在したが、政府は学者の協力の下、これらを集めて崩し字の統一規格を創ることに成功した。この規格を学者らが都で定めたことから京字(yula)という。政府は覚えるのが簡単な京字を使って文を書くよう推奨したものの、極字(sanla)のほうが見てすぐ意味が取れることからその計画は失敗に終わった。しかし完全に失敗だったわけではなく、このことがきっかけとなり、機能語は京字で記すようになった。</p> <p>京字が機能語を表し、極字が内容語を表すようになった結果、これらのハーディアン文字をまとめて京極(mana)と呼ぶようになった。</p>
yuuma 3659	サルディーンからピッカが独立し、サルディーンはデスパナと改める

yuuma 3668	シフェランはロロスの前線基地からフィギットへ進軍
yuuma 3672	全体的に見れば竜族はもともと暖かい地方を好む傾向があるため、寒い地方の戦闘には不向きである。フィギットでは吹雪にも遭い、進軍は厳しいものであった。戦線についてころにはすっかり兵が疲弊しており、フィギットの厚い防御を切り崩すことができなかった。そのため、シフェランは竜騎兵を撤退
yuuma 3673	ヴォザモが独立
yuuma 3680	シフェラン、アクオリア人から同盟の話を持ちかけられる。アクオリアはマレット系の民族から成るが、負けのこんできた同法に見切りをつけ、シフェランにすりようとしたためである。アクオリアは土地柄テーティス（風竜）とエリティス（水竜）が多く、アクオリア人はこれを飼いならしていた。これらの竜は寒さに強く、進軍できる。しかし骨ばっていたり氷で覆われたりして乗りづらい。そこでシフェランは断った。だがアクオリア人は引き下がらず、魔獣遣いを紹介した。魔獣遣いは器用にこれらの竜に乗りこなし、また、降りた状態でも鞭を使って器用に操ることができた。しかも一人で複数の竜を操ることができた。これに感動したシフェランはアクオリアと同盟を結んだ
yuuma 3682	シフェラン、魔獣遣いを率いてフィギットへ侵攻
yuuma 3684	フィギットが陥落し、シフェランは統治をアクオリア人に委ね、その代わりにアクオリアに前線基地を置いた
yuuma 3698	シフェランはシージアのユピトール地方へ進軍
yuuma 3723	シージア本土の守りは堅く、ほとんど上陸前に海岸で撃ち落されてしまう。侵攻 25 年を区切りにシフェランは休戦を決意。一方のマレティスにはアクオリアへ攻め入る余力がなかったため、ふたたび冷戦が訪れる。
yuuma 3731	バルマーユから移動した魔族が fiilia を中心とした国家 velxion を建国→velxion
yuuma 3759	ティリア海とトーリア海で海賊被害が相次ぐ。シフェランは海軍を強化
yuuma 3768	シフェラン、海賊船を一隻撃破。海賊が人間ではなく知能を高めたヴェイガン・エルヴェイグ・エリアンからなるものとして騒然となる

yuuma 3772	シフェラン、海賊の長アンジェと同盟を結び、強力な海軍を得る
yuuma 3774	シフェラン、北は魔獣遣いを編成してユピトールに攻め入り、南は竜騎兵を編成してイールゥートに攻め入り、同時作戦を展開。兵力を分散されたマレティスは苦心した。さらにそこにシフェランは同盟軍の海賊を投入。対空作戦ばかり主眼にしていたマレティスは意外な伏兵に圧倒される
yuuma 3775	ユピトールが陥落、建国
yuuma 3776	イールゥートが陥落、建国
yuuma 3793	シフェラン、アンジェと合同でヴィルハノイに侵攻
yuuma 3813	ヴィルハノイを制圧。アンジェの領土とする。この行為にマレティスは人類を売る行為だと激怒。シフェルの一族からも非難が上がる
yuuma 3815	マレティス、ヴィルハノイを取り戻さんとリディアから侵攻。アンジェはシフェランに援軍を要請したが、シフェランはシフェルの一族からも非難があがっていることを背景にこれを見捨てる
yuuma 3817	アンジェ軍は壊滅し、ヴィルハノイがマレティスの手に戻る
yuuma 3823	第一次シージャ戦争。シフェランが敗退し、撤退
yuuma 3848	第二次シージャ戦争。シフェランが敗退し、撤退
yuuma 3863	第三次シージャ戦争。シフェランが敗退し、撤退
yuuma 3879	第四次シージャ戦争。シフェランが敗退し、撤退
yuuma 3896	第五次シージャ戦争。北部が陥落し、リーゼルを建国
yuuma 3900	第六次シージャ戦争。シフェランが敗退し、撤退
yuuma 3922	第七次シージャ戦争。シフェランが敗退し、撤退

yuuma 3952	第八次シージャ戦争。シフェランが敗退し、撤退
yuuma 3983	第九次シージャ戦争。シフェランが敗退し、撤退
yuuma 4000	第十次シージャ戦争。シージャが陥落し、ルティアを建国。十次に渡る長き戦いにより、リーゼルやルティアでは東西の血と文化が入り混じるようになった
同	<p>〔言語〕 vernlens</p> <p>シージャ戦で zg 以前の情報が途絶えた。これにより szd と szl の区別は rf や fv との比較で行うこととした。</p>
同	<p>本拠地であるシージャを失ったことでマレティスは指導者としての立場を失った。このままではマレット人はシフェル人に根絶やしにされかねないと危惧したマレティスは人類史上最大の暗殺計画を立てる。せめて指導者のシフェランさえ暗殺してしまえばシフェル人の攻勢は急激に弱化する。しかし強力なヴィードを持った人間の暗殺には同じく強力なヴィードを持った人間の力が必要であった。そこでマレティス自身によるシフェラン暗殺計画が浮上した。問題はいかにシフェランとの邂逅を果たすかであり、いかに守りをかいくぐって対面するかであった。最終的には壮大な国家規模の計略が功を奏し、マレティスはシフェランを襲撃する機会を得た。そこでシフェランと一騎打ちとなり、相打ちとなる。指導者を失ったシフェルとマレットは慌しく揺れた。指導者が消えたこの時点でアズゲルの時代は終了する</p>
●mertena	<p>宗教戦争の勃発から召喚士の台頭までの時代。yuuma 4,001～6,016</p> <p>メルテナ前期：宗教戦争(yuuma 4,001～4,444)</p> <p>メルテナ中期：パックス・ディマリア(yuuma 4,445～5,109)</p> <p>メルテナ後期：召喚士戦争(yuuma 5,110～6,016)</p> <p>——の3部に分かれる。</p>

前期 宗教戦争 (yuuma 4,001～ 4,444)	<p>アズゲルでシフェルとマレットの争いが終わり、シフェルの時代が到来する。</p> <p>マレットの一部はシフェルと共存し、残りはケヴェアやアデントなど別の大陸に追いやられた。</p> <p>神人貿易の利権を巡ってルカリアでアトラス初の宗教が興り、レスティルを通してアルカット全土へ広がっていく。</p> <p>初の宗教はアルテ教であり、辞書の arveete を参照。</p>
yuuma 4001	ルカリアでアルテ信仰が隆盛する。民間的には貿易商の間で既にアズゲルからアルテ信仰の源流はあった
同	レスティルの小都市 arvette で lidel が koppel と gildo (商工会) を設立
yuuma 4002	リデルが流行っていたアルテ信仰を利用しコッペルとアルテ教(arveete)を作り、商工会の結束を高めようとする。集団で購買し、かつ売れ残りの持合をしてリスクヘッジをすることで、神人貿易商の購買力に対抗することが商工会の当初の目的だった
yuuma 4023	商工会の支部がルークスに設立
yuuma 4044	商工会の支部がイルケアに設立
yuuma 4067	商工会の支部がレスティリアに設立。神人貿易商の圧力が強いため、本部はアルヴェッテに置き続けられる
yuuma 4088	小麦の豊作が仇となり、値崩れが起こる。先物による損失とその結果であるところの大量の在庫を抱えた商工会は窮地に立たされる
yuuma 4090	リデルが mel doya の実験を行う
yuuma 4099	メルドーヤの実験に成功

yuuma 4102	ケートで凶作が起こり、ライ麦の先物をしていた商工会は打撃を受ける（4088 のときは凶作を見込んでの失敗で、今回はその逆）。メルドーヤの研究は一時中断され、リデルは恐慌の収拾に就く
yuuma 4117	レスティリアで大麦が豊作となり、在庫があぶれる。小麦に続く損失で、これにより三度目を防ごうとメルドーヤの研究が再開される
yuuma 4123	リデルがアルヴェッテでメルドーヤを運用開始
yuuma 4127	各支部でメルドーヤが建てられる。秘密保持とスペース確保のため郊外に建てられ、見張りが付けられた
yuuma 4134	レスティリアで大麦が凶作となる。リデルは蓄えていた大麦を安価で供給し、一躍名声を浴びる。これを神の救済としたため、たちまち庶民の間にアルテ教が広まっていく
yuuma 4137	リデルに対抗して神人貿易商の名士 ignast が神商会を設立
yuuma 4141	イグナスト派がレスティリアのメルドーヤに侵入し、仕組みを盗もうとする。見張りは有事の際の取り決めに従ってメルドーヤを破壊し、秘密を保持した。これにより、商工会との対立が明確となる。商工会は凶作のときにメルドーヤを使って信者を獲得してきたため、庶民ほど恩恵を受けており、庶民に信者が多い。対して神商会は富裕層が多い。数では商工会、個々人の経済力という意味の質では神商会という構造があった。
yuuma 4142	リデルがメルドーヤを破棄し、商工会の地下に広大な空間を作り、その中にメルドーヤを移しはじめる
yuuma 4152	リデルはアルテ教会をアルヴェッテに設立し、商工会から独立させる。これは神商会および国王から商工会が睨まれていたことに対する方策であり、実態は商工会の人間で上層部が占められた。
yuuma 4172	レスティリアの王府からアルテ教は異教(myukale)だという公言がなされる。実際に歴史的に見ればアルテ教のほうが間違っているわけで、存在しない神を崇められては当然サルトとしては鼻持ちならない。また、神商会としてはこれ以上商工会をのさばらせておくわけにもいかなかった。そこで両者が時のレスティル王マールを炊きつけ、アルテ教を邪教とし、yuuma 4174 にはさらに宗教の禁止を公布させた。宗教はアルバレンで myukale といい、「嘘のもの」「存在しないもの」を意味する。これにより、アルテ教迫害の下準備が整う

yuuma 4175	レスティリアでアルテ教の弾圧が開始。間接的な商工会への攻撃が開始された
yuuma 4176	本山アルヴェッテに弾圧の手が及ぶ。教会は商工会の経済力を背景に清教徒兵団という私兵団を設け、弾圧に対抗。本山は守られたが、教徒に対する各地での迫害は続いた
yuuma 4182	レスティル全土に弾圧が広がる
yuuma 4184	周辺国家でも弾圧が開始される
yuuma 4189	レスティル北部の都市アデュにアルテ教徒の収容所が設立される。これがかのアデュ収容所である
yuuma 4205	王府はアルテ教会が違法な邪教の組織であるとし、教会の解体を命じる。教会はこれを不服として拒絶
yuuma 4206	レスティリア軍がアルヴェッテに侵攻。内戦が始まる
yuuma 4207	弾圧の厳しかったケートイア地方で義勇軍が立ち上がり、人人貿易で利益を得ているアルディアル人が主な兵力として参加
yuuma 4208	ケートイアの義勇軍のレスティリア侵攻がきっかけで、アルヴェッテに侵攻していたレスティリア軍に後顧の憂いが生じ、撤退。結果的に清教徒兵団が勝利する
yuuma 4212	レスティリア軍、ケートイア義勇軍をケートまで追いやる
yuuma 4214	清教徒兵団、ケートイア義勇軍と挟撃してレスティリア軍をアデュで破る。彼らはまとまり、清教徒軍を名乗る
yuuma 4217	清教徒軍、ドフレットに侵攻
yuuma 4218	清教徒軍、ドフレットを奪取。清教徒軍はレスティリア奪取を目指して準備を始める
yuuma 4219	ラヴァスの再来を恐れてアトラスの内政に関与できないサルトだが、このままでは神人貿易の存続が危ういと見て、ルフェルとアルデスがアルカンスで会談を行う
同冬	サルトがリデルにレスティリア侵攻を自重するようにとの警告を発する。リデルも神と直接戦うのは分が悪いと考え、アル

	テ教の公認と引き換えに停戦を受け入れた。サルトはその結果を受けてひとまず矛を収め、時のレスティル王 maal に決断を委ねた
yuuma 4220	マール王がアルテ教を邪教としたことは誤りであったと認め、アルテ教を公認する
yuuma 4221	公認は多くの教徒にとって喜ばしいことだったが、一部の過激派には不満が残った。あのまま進軍していればレスティリアを奪取できたと考えた教徒はリデル及びマール王に対する怒りをあらわにした
同夏	過激派がテロと化し、神商会への攻撃を開始。一時騒然となる。教会は一切関与していないと明言。この発言を言質として受け取ったマールは神に掃討を依頼。アルデスとルフェルが降臨し、過激派を掃討
同秋	過激派が容易に掃討されたことを受け、ユーマの一族に衝撃が走る。皮肉なことに、サルトを思想的に貶めていたアルテ教の信者さえもその圧倒的な力を見せ付けられ、神の偉大さを知るようになる。この件がきっかけとなり、アルテ教徒の中にサルトも信仰しようという多神教の考えが生まれる
yuuma 4222	リデルは多神教の考えを否定。多神教の考えを邪悪な考えと非難した
yuuma 4236	神商会の harklet が年々教徒を増やして力を付けていく教会の力を押さえ込むために、多神教派の先導者 rudia をバックアップしはじめる
yuuma 4241	rudia は多神教のサルト教を樹立し、アルテ教から分派・独立し、jelika に居を構える。教会は二分され、内紛が起こり、力が弱まる
yuuma 4278	ハークレットの進言で王はサルト教も公認する。神商会・アルテ教・サルト教の三頭体制が生まれる。神商会とサルト教は比較的同盟関係にあった
yuuma 4312	神商会のバックアップを受けたサルト教は躍進し、アルテ教に並ぶ規模に達し、対立が激化
yuuma 4349	両宗派の宣教師がスカルディアのルビー鉱山地帯 faredia の採掘権を巡って抗争を開始
yuuma 4352	抗争がレスティルに飛び火。小競り合いの繰り返しが起こる

yuuma 4380	リデルとルディアが会談し、和議を結ぶ。緊張を伴う平和が訪れる
yuuma 4404	マール王が崩御し、娘のディマリアが女王に就くも、神商会の力は一時的に弱まる
yuuma 4405	虎視眈々とアルテ教が神商会に狙いを定める。しかし直接的な戦いに持ち込むとサルトが口を出さざらうことは分かっていたため、神商会を政治的に潰して教会が神人貿易を取り仕切り、利益を上げようという計画をコッペルが立てる
yuuma 4406	ハークレットは教会の陰謀に気付き、サルト教会との連携を強め、神人貿易の一部に参加させることを条件に連立を行う
yuuma 4408	連立した神商会とサルト教会はアルテ教会を攻撃
yuuma 4416	連合軍が清教徒軍を攻撃
yuuma 4418	アルヴェッテが陥落。リデルとコッペルは戦死し、教会は解散となる
yuuma 4444	後継者 abelis がアルディアルの heist で教会を建て直す。ハークレットは神人貿易に参加しだしたサルト教を内心邪魔に思っていたが、アベリスの台頭により共闘を維持せねばならなかった。しかしサルト教としても神商会をなんとか出し抜きたいところで、実際には三頭体制の再来になっていた。アベリスは地道に信者を増やし、争いを避けるために政治には極力口を出さないようにし、宗教の本来的な形を取って布教した。個々の布教効果は微弱だったものの、長年の積み重ねは功を奏していく。以後およそ 700 年間、女王ディマリアの治世のもと、比較的安定した統治が続く（パックス・ディマリア）
中期 パックス・ ディマリア (yuuma 4,445~ 5,109)	女王ディマリアの治世のもと続いた約 700 年に渡る平和な時代。

yuuma 4673	ハークレット死亡。カンダルが神商会の新たな代表となる
yuuma 4891	ルディア死亡。ディートアが新たなサルト教の代表となる
yuuma 5023	カンダル死亡。ユキナが神商会の新たな代表となる
yuuma 5109	ディマリア崩御。息子のミハリルが203歳で即位する
後期 召喚士戦争 (yuuma 5,110~ 6,016)	
yuuma 5199	サルト教のディートアが死亡。後継者は後のカルマント派を作る ireus と、後のエスピール派を作る teezus の2人となった
yuuma 5238	サルト教が二派に分派。アルテは実在であり創造主であるとする kalmant と、アルテは概念であってすべてを生んできた自然の流れをそのように呼んだにすぎないとする espi r とに分かれた。カルマントはアルテの偶像崇拝を行った。エスピールはアルテを偶像視しないので、それが高じてほかのサルトを含め偶像崇拝そのものを嫌った
yuuma 5266	アベリスが死亡。ガルマがアルテ教の新たな代表となる
yuuma 5288	ミハリル王に息子ハリカルが誕生
yuuma 5367	このころメティオ美術が盛んとなる。メティオはカルマントが多く、アルテの偶像崇拝を行い、皿や壺などの調度品にアルテを描いた。サルトの感情を考慮して輸出は自主規制してきたが、この年人的ミスによりルフェルのもとに一枚の皿が届く。それまでも誤った輸出品に関してはエルフレインがチェックを行って弾いていたが、このときはエルフレインも気付かず通

	してしまった。たちの悪いことに、その皿はルフェルがアルテにひざまづいているものであった。これを見たルフェルは気分を害したものの、不処分とした
yuuma 5368	しかしエルトの一族は神に対する冒瀆だと激昂。カルマント派からの輸入を制限する
yuuma 5369	同じサルト教ということで怒りがこちらにまで向いてはたまらないと思ったエスピールはカルマントを排してスピンオフ
yuuma 5375	カルマント派を失ったことはサルト教全体で見れば教会の脆弱化を招いた。そこにつけこんだ神商会はエスピールの掃討に動き出した。エスピールを排せば昔同様神人貿易の全権は神商会が握れるためである
yuuma 5376	レスティリア軍がジェリカに侵攻開始。エスピールは軍事力で劣っていたため、神人貿易の契約である有事の際の保護を申し出、神に助力を請うた。しかし同様に神商会も契約に基づき神の助力を請うた。結果、神はどちらの味方につくこともできず、なんの役にも立たなかった
同冬	ジェリカは記録的な豪雪に見舞われ、包囲していたレスティリア軍は一時撤退を余儀なくされた。エスピールも神商会も神が自分たちを助けなかったのは契約違反だと抗議。この動きはインサールにまで広がった
yuuma 5377	神人貿易を手放すわけにはいかなかったルフェルとアルデスは会談し、契約の方針を変えることで合意。従来は神人貿易を行う団体と契約をし、その団体の求めに応じて召喚されていた。それだと契約団体同士が抗争した場合、神は助力できなくなる。そこで契約を貿易商個人と直接行うことにした。どちらのサイドであろうがその個人契約者の求めに応じて、その敵を攻撃するという契約に変えた。契約者はヴィルを使って神をアルフィからアトラスへ転移させる。このとき強い神であればあるほど大量のヴィードを持っているので、移送にも大きなヴィルがかかる。団体でなく個人単位で召喚するため、召喚時間は短く、原則として神は相手に一撃しか攻撃を加えることができない。例えばアルデスと個人契約を結んだ商人がアルデスを召喚すると、アルデスは敵を一回攻撃して去る。アルデスはそのときその契約者の求めに応じて敵を攻撃するだけなので、敵が別個にアルデスと契約を結んでいたとしても攻撃を受ける。従って決闘などでは先に召喚したほうが有利となる。もし一撃で勝負がついてしまえば、先に召喚したほうが勝者となる。召喚時間が短くなることで神に代わりに戦ってもらうことはできなくなり、神はただの兵器の一種となった。これにより神は「相手が契約者団体だから動けない」というしがらみがなくなり、責任も追及されないようになる。それでいて人類としてはやはり強力な兵器である召喚を使わないわけには

	いかず、このシステムを飲んだ。この出来事がメルテナ後期の召喚士時代を築くことになる
yuuma 5388	レスティリア軍、ジェリカに再度侵攻。歴史上初めて召喚士同士の争いが起こる
yuuma 5402	長期に渡る戦争が終わり、レスティリア軍が撤退
yuuma 5408	内乱で疲弊したレスティルにルカリアが攻め入ってくる。ミハリル王は神商会とエスピールをまとめて外敵に対抗しなければレスティルは占領されるであろうと唱え、神商会とエスピールの融和を目指した
yuuma 5412	ルカリアがケートを通過
yuuma 5419	同、アデュを通過
yuuma 5426	同、ドフレットを通過。前線に出ていた時期国王のハリカルがまさかの戦死を遂げ、レスティルは騒然となる
yuuma 5428	危機を感じた神商会（王寄り）は、エスピールを国教と認め、アルテの概念としての存在を認め、信仰を奨励する。これによりエスピールが王に協力的になる
yuuma 5433	神商会はカルマント派を抱き込み、兵力を増強。しかしエスピールの不満を呼ぶこととなる。ミハリル王はカルマント軍を別の戦役に置き、エスピールと別々に配置した
yuuma 5437	神商会はガルマを抱き込み、アルテ教も受け入れた。サルト教の不満が上がり、アルテ教軍は危険な前線へと追いやられた。しかしそれでも狂信者たちはアルテ神の公認のために戦った
yuuma 5440	レスティル、ルカリア軍を撤退させ、勝利する
yuuma 5444	スカルディアのアルシェリア人がカテージュ地方に侵攻開始。竜騎兵から成り、双龍槍を振るう、小柄ながら屈強な戦士を中心とした軍隊で、接近戦と中距離戦に長けた。ルカリアとの戦いで疲弊していた王府は満足な対策を講じられなかった
yuuma 5456	カテージュ東部の山岳地帯の要塞都市 alkidel が陥落。アルシェリア人の侵入を許す
yuuma 5469	カテージュが征服される

yuuma 5481	ミハリルに娘ペティが誕生
yuuma 5491	ミハリルが崩御。10歳のペティが即位する。アトラス史上ありえないことで、物議をかもすこととなった。結果、ユキナが政治を見る摂政という地位についた
yuuma 5495	カテージュ軍、混乱に乗じてイルケアに侵攻。戦争は長期に渡る。皮肉なことに、長引く戦いのせいでかえって異教間のわだかまりは弱くなっていき、召喚士の地位が高まっていく。何教かよりも召喚士か否かという区別のほうが重要視されつつあった
yuuma 5521	レスティル軍はカテージュ軍を退け、アルシェリア人はカテージュに撤退
yuuma 5565	ユキナ死亡。メリウセルが神商会の新たな代表となる。メリウセルは力でのし上がった人物で、強力な魔力を持っていた。その力を活かして神と次々に契約を結んでいった人物である。このときペティがまだわずか100歳にも達していなかったため、メリウセルが関白という地位を築いて政治を見た
yuuma 5576	先の戦いで戦功があったのは主に召喚士で、宗派を越えて召喚士そのものの地位が高まっていった。召喚士同士の横の繋がりのほうが宗派よりも重要視されるようになり、ほとんどの人間は各宗派の違いよりも職業の違いを意識するようになった。この状態を受け、関白メリウセルは日本でいう神仏混合（エマルジール）を行い、アルテもサルトも漠然と崇める対象と広く定義し、アルテの存在を認めない神商会に対しては「このアルテは原初に存在して分裂したアルテのことで、概念でも唯一神でもない」と説明し、飲ませた。神商会としてはエマルジールを行うことで富国強兵になり、体よくサルト教とアルテ教を吸収できると考えた。この時代は昔ほど宗派の違いが重要でなく、召喚士や魔導師といった職業のほうが重要視されたため、メリウセルは新しい風潮に合わせて宗教理念を柔軟に解釈した
yuuma 5587	エマルジールがインサールでも起こる
yuuma 5603	エマルジールがレスティル周辺諸国に広まる
yuuma 5612	メリウセルの王府における権限が強くなりすぎたことに対し、国王派の嫌気が高まり、神商会との対立が浮き彫りに
yuuma 5621	メリウセルが宗派を統合し、artilialia教と改名。アルテの解釈を広く取り、宗派をまとめた。これにより教会の力は高まり、

	いちはやく統合を行ったレスティルは諸国に対し秀でるようになる
yuuma 5635	ルカリアで統合が起こり、artiliaの普及が一步進む
yuuma 5648	ヴェマで統合が起こり、artiliaの普及が一步進む
yuuma 5653	artiliaの力を背景に、カテージュのレコンキスタ（再征服）が開始
yuuma 5655	カテージュのスカルディア人はartiliaに対抗するため、首都 iksdiaにて iksante 教を興す。教祖はシフェル系スカルディア人の hastil で、もとは被支配民族であった。iksdiaはシフェル系古スカルディア語の地名で、iksanteはマレット系古スカルディア語であり、マレット系古メティオ語にほぼ等しい。iksanteは iksdiaを外来語としてマレット系古スカルディア語に取り入れてから「～教」を指す形態素を加えてできた名である。ハスティルは「封印されたチームスが復活して神と神の軍を倒すであろう」と唱え、魔獣兵を率いて、レスティル率いる神の軍artiliaと戦った
yuuma 5659	iksanteの守りは堅牢で、カテージュのレコンキスタは至難のわざであった。また、レスティルには常にルカリアという後顧の憂いがあったため、戦争を長引かせるわけにはいかなかった。この年、レスティル軍は撤退
yuuma 5667	周辺諸国で次々と統合が起こり、artiliaが世界宗教に
yuuma 5670	iksanteがスカルディアで国教となり、artiliaが強制退去させられる。迫害・虐殺を行わないところが温厚なスカルディア人らしいと評された
yuuma 5680	iksanteがメティオで国教となり、artiliaが迫害・虐殺される。庇護を求めてartiliaがレスティル及びアルディアルへ亡命。迫害に対し、artiliaの iksante への非難が高まり、これが第二次レコンキスタへの呼び水となる
yuuma 5686	第二次レコンキスタ開戦
yuuma 5703	レスティル軍撤退
yuuma 5705	レコンキスタでの失敗をかさに国王派は関白メリウセルを追及。失脚を狙う
yuuma 5708	国王派の過激派 diorel がメリウセルの暗殺を企てるが、強力な mejtel により失敗

同月	メリウセルが報復でじきじきにディオルールを暗殺。国王派との内乱が勃発する
同冬	メリウセルはレスティリア城の西部に陣を構え、国王派と闘争
yuuma 5709	メリウセル軍が国王軍を破り、ペティを廃位。下克上という言葉ができる。メリウセルは自らが王となり、レスティルを支配。召喚士から輩出した初めての王であった
yuuma 5710	血の革命が起こり、元国王派が次々と要職を追われ、虐殺される。この行為に国民の不満が爆発し、メリウセルは対応に追われる
yuuma 5716	メリウセルは国民の暴発を鎮めるため、元女王ペティを嫁に迎え、王家の血を絶やさないことを約束。譲歩を見せられた国民の一部は溜飲を下げたものの、完全に納得したわけではなく、治安は完全には回復しなかった
yuuma 5732	メリウセル、息子 ivil を授かる。王家の血と混ざったこともあり、非常に強力な才能を秘めて生まれた
yuuma 5755	ヴェマで召喚士 krius が王を倒して新王となる
yuuma 5766	ルカリアで召喚士 hakxilia が王を倒して新王となる
yuuma 5777	周辺諸国で召喚士が王を倒して新王となる。ただし、スカルディア、メティオは除く
yuuma 5787	第三次レコンキスタ開戦
yuuma 5799	レスティル軍、カテージュを再征服
yuuma 5806	第四次レコンキスタ開戦。レスティル軍、要塞都市アルキデルへ侵攻
yuuma 5811	レスティル軍、撤退
yuuma 5823	アルキデル軍、カテージュに再び侵入

yuuma 5829	カテゴリーユ陥落。ふたたびスカルディアの領地に
yuuma 5836	第五次レコンキスタの準備を整えていたが、度重なる戦争で疲弊した国民から非難の声が相次いだ。経済は悪化し、軍事費がかさみ、何よりレコンキスタが最初に行われたころに比べ、この時代の新しい世代にとってカテゴリーユは生まれたころから異国であるため、レコンキスタといわれてもピンと来なかった。初期はレコンキスタに強い思い入れがあった国民も、いまや半分どうでもよくなっており、それより目の前の生活を王府は改善しろという声の方が圧倒的に多くなった。そのため王府はレコンキスタを凍結し、カテゴリーユを切り捨てた
yuuma 5859	イルケアにカテゴリーユ軍が侵攻
yuuma 5862	カテゴリーユ軍、撤退
yuuma 5878	ケートにルカリア軍が侵攻
yuuma 5883	ルカリア軍、撤退
yuuma 5899	ケートにアルディアル軍が侵攻
yuuma 5903	アルディアル軍、撤退
yuuma 5919	ルカリア・アルディアル連合軍、ケートに侵攻
yuuma 5923	連合軍、ケートを陥落
yuuma 5938	レスティル軍、ケートをレコンキスタ開始
yuuma 5941	レスティル軍、ケートを再征服
yuuma 5955	死期を悟ったメリウセルが妻ペティを暗殺。自分の死後に元国王派のペティ派とイヴィル派に割れるであろうことが明白だったため、国と国民を守るために妻を犠牲にした
yuuma 5973	母を殺したのが父メリウセルだと知り、イヴィルは激怒。病床にあったメリウセルを刺し殺す。メリウセルが崩御し、イヴィ

	ルが即位する。召喚士が王となって国を統治するシステムが安定した時期で、召喚士はエルト派とサール派に分かれ、アルカットは東西に分断されはじめる
yuuma 6003	イヴィル、メティオおよびスカルディア（＝中洋）の支配を狙い、カテゴリーに侵攻開始
●kako	月戦争。西のドゥルガ圏と東のヴィーネ圏の戦い。yuuma 6,017～8,095(imul 16) カコ前期：アリスカンテ時代(yuuma 6,017～6,804) カコ中期：イシリウス時代 (yuuma 6,805～7,491 flea) カコ後期：アディア交戦(yuuma 7,491 alis～8,095(imul 16))
前期 アリス カンテ時代 (yuuma 6,017～ 6,804)	
yuuma 6017	クリウス、中洋の支配を狙い、メティオ東部 alhante に侵攻。中洋は上弦でも下弦でもなく、イクサンテ（拝魔教）に属している。このため神人貿易に非協力的で、イクサンテ樹立以降は特に鎖国状態に近いものがあつた。豊富な中洋の資源を巡って東西が争うようになる。クリウスのメティオ侵攻で東側も中洋の支配に乗り出し、西側との対立が浮き彫りになる。ゆえにこの時点をもってカコの開始とし、6016 をメルテナの終わりとする
yuuma 6021	クリウス、娘の iihal を授かる

yuuma 6055	クリウス、アルハンテを陥落
yuuma 6137	イヴィル、遠征先の anje で娘誕生の報を聞き、lanje と名付ける
yuuma 6172	イヴィル、カテージュをレコンキスタ
yuuma 6225	クリウス崩御。イーハルが即位
yuuma 6284	イヴィル、アルキデルを陥落
yuuma 6321	イヴィル崩御。強力な力を持ちながらも、寿命がほかの王より少し短くなっている。ランジェが即位
yuuma 6356	ランジェ、アルシェリアを陥落
yuuma 6380	ランジェ、genos を陥落
yuuma 6391	イーハル、アルハンテ西部の reixan に侵攻
yuuma 6400	アルシェリアが独立国家となるが、レスティルは宗主国となり、事実上の属国であった
yuuma 6401	ゲノスが独立国家となるが、レスティルは宗主国となり、事実上の属国であった
yuuma 6403	イーハル撤退
yuuma 6415	ランジェ、lazdia を陥落。現魔方に食指を伸ばす。魔方はこの時点で既に iksante によって lazdia など、悪魔的な地名に塗り替えられていた
yuuma 6423	イーハル、第二次レーシャン戦争
yuuma 6437	レーシャンを陥落
yuuma 6442	イーハル、tonkan に侵攻
yuuma 6450	トンカンを陥落

yuuma 6466	ランジエ、bertia を陥落
yuuma 6472	イーハル、娘の diomante を産む
yuuma 6480	イーハル、mansei に侵攻
yuuma 6492	イーハル撤退
yuuma 6503	ラスディアが独立国家となるが、レスティルは宗主国となり、事実上の属国であった
yuuma 6511	イーハル、マンセイに再度侵攻
yuuma 6523	マンセイを陥落
yuuma 6532	ランジエ、estia を陥落
yuuma 6543	イーハル、現アリディアの tselin に侵攻
yuuma 6556	イーハル、ツェリン前線でまさかの戦死。ヴェマに衝撃が走る
yuuma 6557	宰相 erin と diomante 姫の派閥に分かれ、ヴェマ連合（ヴェマ及び沙方からなる連合）で政治戦争が起こる
yuuma 6573	diomante 派が宰相派を政治的に倒し、宰相派は暗方に封じられる
yuuma 6588	ランジエ、娘の azeria を産む。東方遠征は最大戦力であるランジエが前線を退いたことで一時中断。レスティルは防戦の構えを取る
yuuma 6593	ディオマンテ、イーハルに代わってツェリンに再度侵攻
yuuma 6600	敗戦による内政不安からスカルディアが3国に分裂。merdia, kiltia, askaldi に
yuuma 6601	ツェリン陥落
yuuma 6619	ディマンテ、ツェリン西部の anpel に侵攻

yuuma 6623	ディオマンテ撤退
yuuma 6631	アスカルディがメルディアに侵攻
yuuma 6636	メルディアが陥落
yuuma 6638	弱体化したメルディアにレスティルが侵攻
yuuma 6639	メルディア陥落。焦土と化す
yuuma 6652	メティオ、ツェリンのレコンキスタを開始
yuuma 6672	若きアゼリア姫、キルティアの外相を巧みな交渉術で取り込み、キルティア王を説得させて無血開城を実現。レスティルは労せずキルティアを物とする。キルティアには自治権を与え、優遇税制を取った
yuuma 6680	メティオ、ツェリンをレコンキスタ
yuuma 6699	ディオマンテ、ツェリンのレコンキスタを開始
yuuma 6703	経済的に栄えたキルティアとレスティルの連合軍がアスカルディに侵攻
yuuma 6707	アスカルディの激しい抵抗に撤退を余儀なくされる。アゼリアは敗戦の理由がレスティル兵とキルティア兵の宗教の違いによる不和にあるのではないかと考えた。この時点の宗派の違いは弱くなっていたものの、それはアルティリア教内部における話であって、拝魔教イスカンテとの間には根本的な違いが残っていた
yuuma 6708	ディオマンテ、ツェリンをレコンキスタ
yuuma 6714	アゼリアの進言を受けてランジェは神魔混合（ミレムジュール）を行い、artiliaとiskanteをariskante教に統合。旧宗教のうち統合反対派から激しい反対を受ける
同夏	反対派の過激派がキルティアでテロを開始
yuuma 6722	ランジェ崩御。アゼリアが即位。テロに格好の機会を与える

yuuma 6729	ディオマンテ、アンペルに再度侵攻
yuuma 6735	ツェリンでダイズアイライが大量発生し、ディオマンテはアンペルから撤退
yuuma 6737	テロがメルディアでも発生
yuuma 6738	ダイズアイライが沙方に飛び火。連合は混乱する
yuuma 6739	ヴェマ王府がアルティリア教徒を優先的にダイズアイライ災害から救済したことで、連合内のイスカンテ教徒から非難が上がる
yuuma 6740	その対策としてディオマンテがアリスカンテを取り入れ、国教と定め、アルティリアとイスカンテ間の異教徒という壁を取り除き、差別を禁止する法を制定。しかし法はしばしばザルで、現場では守られないことが多く、不満の声は残った。またこの結果、反対派の反発を招くこととなり、インサールにもテロが飛び火
yuuma 6743	テロがレスティル本国に飛び火
yuuma 6745	アゼリア、アリスカンテ以外を邪教と宣言。信仰心の篤いもののうち旧アルティリア教徒を letis と呼び、旧イスカンテ教徒を teetia と呼び、それ以外を veles と呼び、veles を強く非難した。反対派はこれによって邪教徒 harva と呼ばれるようになり、弾圧の対象となった
yuuma 6746	アゼリアは教祖を名乗り、自らを預言者にしようとしたが、国民の賛同は得られなかった
yuuma 6749	アゼリア、邪教徒の本拠地であるアルヴェッテに侵攻
yuuma 6750	アルヴェッテの大虐殺が起こり、邪教徒は一掃され、散り散りになる。このとき既に国内はアリスカンテ教が優勢だったため、アゼリアは賞賛を浴びる
yuuma 6752	アゼリア、息子の andant を産み、andant を預言者と公言。国民は邪教徒討伐の一件があったため、これを受け入れる

yuuma 6753	ディオマンテが連合国内の邪教徒を一掃しはじめる
yuuma 6754	邪教徒を一掃しおえる
yuuma 6758	ディオマンテ、息子の ikstan を産み、これを預言者とする
yuuma 6759	アリスカンテの預言者が2人となったことで東西は正当性を互いに主張し、対立が濃くなる
yuuma 6762	ディマンテ、アンペルに再度侵攻
yuuma 6767	アゼリア、アスカルディに侵攻
yuuma 6774	ディオマンテ撤退
yuuma 6777	アスカルディを陥落。アルマティア、カルテール、ガルテアに分割する。アスカルディ王家はフレスティルに封じられる
yuuma 6786	アゼリア、アンペル西部の toutou に侵攻
yuuma 6792	トウトウ陥落
yuuma 6803	アゼリアは長い因縁のあるアンペルとヴェマを見て、アンペルのメティオ政府に同盟を提案。アンペルはこれを受け入れ、自治権と優遇税制のもと、アゼリアと組む。こうして無血開城でアゼリアはアンペルを手に入れ、メティオの領土は一時アンペル自治区のみとなる
yuuma 6804	アゼリアはアンシャルの大部分を支配していたが、未征服の土地も多かった。しかし西は既に東という共通の敵を持っていた。勝手に西をひとつの帝国とするわけにはいかないが、東という共通の敵を浮き彫りにするために、アゼリアは西をドゥルガと呼び、ひとつの文化圏とした。これを受けてディオマンテは東をヴィーネと呼び、月戦争カコが完全に勃発。こうしてカコは中期に入っていく
中期	

イシリウス 時代 (yuuma 6,805～ 7,491 flea)	
yuuma 6808	アゼリア、ルティアと同盟を結び、ルカリアへの圧力をかける
yuuma 6809	ルカリアにてドゥルガへの帰属運動が起こる。レスティルの属国化は拒絶するものの、今は西で争っている場合ではないと考える人々がドゥルガへの帰属を唱えた
yuuma 6813	アゼリア、ルカリアと同盟を結ぶ
yuuma 6817	ルティアから大魔導師 yuklesia がアゼリアに招聘される。引き換えにレスティルはルカリアに経済的援助を行う
yuuma 6822	ユクレシア、lyuux 研究所をレスティリア城郊外に置き、宮廷魔導師の養成を行う
yuuma 6835	レスティルでダイズアイライが大発生。被害は甚大を極めた
yuuma 6837	レスティル全土でダイズアイライが猛威を振るう
yuuma 6838	ディオマンテ、アンペルに侵攻
yuuma 6839	ユクレシアがダイズアイライの二次感染が魔族 aldi lik や arvain による疫病と類似していることに気付き、dizia (病原菌) の存在を仮説として立てる。dizia の駆除は清潔にすることであると説き、実証のため、比較的人口が少なくかつ症状の出ている地方都市アルシアに出張する
yuuma 6841	ユクレシア、アルシアでのダイズアイライの駆除に成功。同時に病気の感染も減らし、dizia 理論が正しいことを証明する。ここから実験をさらに実証するため、ユクレシアは地方都市へ次々に行き、ダイズアイライの駆除を行う

yuuma 6844	ユクレシア、地方都市のダイズアイライを駆除しおえる。首都レスティリアはなまじ人口が多いため、駆除が困難であった
yuuma 6845	アゼリア、レスティリアからアルナに遷都。レスティリアは封じられ、嘆きの壁という巨大なバリケードで囲われた。感染が酷いものは見捨てられ、嘆きの壁の内側に打ち捨てられ、火が放たれた。レスティリアは廃墟と化した。この「嘆きの焰」事件に対し、国民の怒りがあらわとなり、アゼリアの退陣が叫ばれるようになる
同	<p>〔言語〕 vernlens</p> <p>遷都の際、図書館も近寄れないまま廃棄されたので lss 以前の言語情報が途絶えてしまった。そのためこの時代のものは lsd か lsl の区別しか保証されないものがある。</p>
yuuma 6846	反アゼリア派が新首都アルナで暴動を開始
yuuma 6847	アンペルが陥落。アゼリアはさらに名声を失い、窮地に立たされる
yuuma 6850	レスティル全土で反アゼリア運動が盛んとなる
yuuma 6852	アゼリア、国民の反感を反映し、息子 andant が 100 歳になったのを契機とし、退陣。慣例により、王は 100 歳以上であることが望ましいため。ただし未熟な andant には任せられないため、アゼリアは関白となった
yuuma 6856	ユクレシアは地方都市遠征の際に、病人を看護するための施設を設けたが、この病院はユクレシアが旅をしている間はユクレシアの弟子たちによって運営されていた。ダイズアイライの脅威が去った後は病院として使われており、ユクレシアの弟子によって amiti などの魔法が使われたり、清潔な環境での入院治療が行われたりしていた。また、弟子らは患者への生活指導や衛生指導を行っていた。弟子というのはもともと lyuux 研究所の研究者で、嘆きの焰以降はアルナ郊外に研究所が建っていた。時間が空いたときは弟子たちは魔法の研究をしており、特にユクレシアが最初に行ったアルシアには彼の右腕がこぞって付いていったため、非常に優秀な弟子が集まっていた。この年、弟子たちは病院の隣に lyusia 研究所を建て、lyuux の姉妹校とし、魔法の研究に専念した
yuuma 6859	ディオマンテ、トウトウに侵攻
yuuma 6860	遅れてルティアでダイズアイライが発生

yuuma 6861	ダイズアイライの件を受け、ユクレシアはルティアに帰国する。lyuux の所長は弟子の ivles が就任した
yuuma 6865	地方都市で続々と lyusia 研究所の姉妹校が生まれる
yuuma 6867	イヴレスが各 lyusia に年次ごとの研究の成果のまとめを提出するように命じる。しかし各 lyusia は自分の研究所の成果が奪われることを心配し、中央集権的なイヴレスのやり方を嫌った
yuuma 6868	トウトウが陥落
yuuma 6870	イヴレスはアンダントを抱き込み、指示に従わない lyusia には研究費の援助を行わないと脅迫する。これに対し、各 lyusia が徒党を組んで反発。lyusia はレスティル全土に 11 箇所あり、各研究所の所長が共同でアルシアに velmare 研究所を設立。各所長は一季節に一度ずつ velmare に集まり、各々の研究所の成果を述べ合った。このときの所長はいずれもユクレシアが初期に教えを授けた同期で、苦楽を共にした仲間であり、個人的に非常に仲が良かった。lyuux には見せたくない内容でもお互い目の前でということなら腹を割るという間柄であった
yuuma 6875	アンダント、トウトウに侵攻
yuuma 6880	ディオマンテが戦死。イクスタンが即位
yuuma 6881	はじめは季節ごとに訪れて研究発表をしていた所長たちだったが、そのうち自分たちの研究所よりもここで仲間と研究しているほうがはかどると感じ、velmare で暮らすことに決める。velmare は手狭だったため、アルシアの lyusia と velmare をいちど壊し、yusifel 研究所を設立。これにより国内には 10 の lyusia と 1 の yusifel と 1 の lyuux ができた。lyuux を除く所長ら 11 人は yusifel (アルシアの 11 魔将) を名乗り、首都アルナでは alsia の名で親しまれるようになる
yuuma 6883	トウトウが陥落
yuuma 6884	lyuux 研究所のイヴレスが心労で自殺し、衝撃が走る
yuuma 6885	ルティアからユクレシアが帰国。lyuux 研究所を病院として建て直し、院長に元副長の ixirius を選定。以降は lyuux 研究所でなく lyuux 病院とする

同秋	ユクレシアはユシフェールに招かれ、名誉所長に就任
yuuma 6894	リーゼルで大麦が大暴落。先物取引をしていたルティア人の富裕層が一斉に先物証券を投売り。これにより富裕層の投機家が大打撃を受け、ルティア経済は恐慌に陥る
yuuma 6895	ルティアでデフレが発生
yuuma 6902	ルティア経済が急激なインフレに転換。レスティルは経済的援助を行うが、効果は薄かった
yuuma 6904	ユクレシアが本国に呼び戻され、ユシフェールの運営は11魔将の共同統治となった
yuuma 6905	アンダント、アンペルに侵攻。ユシフェール研究所にも徴兵令が達する。しかし研究所は病人の看護と研究を理由に従軍を拒否。国王とユシフェールの間に対立が生じる
yuuma 6907	ユシフェール、アルシアを独立国家と宣言。国王と真っ向から対立し、レスティルから独立
yuuma 6912	アンペルが陥落
yuuma 6920	アンペル戦から体勢を立て直したアンダントはアルシアに侵攻
yuuma 6924	ユシフェール（アルシアの11魔将）の魔力は凄まじく、レスティル軍ではまったく歯が立たなかった。あまりの強さにアンダントは戦慄。前線でアンダントは捕虜となるも、拘置先の研究所で厚遇され、そのまま解放される。その後逆に攻め込まれるものと覚悟したアンダントであったが、ユシフェールの要求は奇妙なものであった
同冬	ユシフェールは「レスティルがアルシアの独立を認め、自分達が研究に勤しめる静かな環境を提供してくれれば、それ以外には何も要求しない」と述べた。ユシフェールは戦禍の復讐も行わなければ、レスティルへの侵攻もしないと約束した。このあまりに控え目な要求に王は混乱した。武人である王は生粋の学者の心理が理解できなかったのである。アンダントは是非もなく要求を受け入れ、アルシアを独立させた。こうして人口30万人の小さな国家アルシアが誕生した
yuuma 6934	アンダント、旧アルティリア系・旧神商会系貴族 xigiuis の娘 xilfia を娶る
yuuma 6947	アンダント、ツェリンに侵攻

yuuma 6955	アンダント撤退
yuuma 6958	イクスタン、旧アルティア系・旧エスピール系貴族 luksant の娘 lukletia を娶る
yuuma 6967	アンダント、シルフィアとの間に息子 iifa を授かる
yuuma 6968	度重なる戦役にメティオ国民（=当時のアンペル人）の暴動が発生。前年にイーファができたことにより、アリスカンテ内で旧アルティアの厚遇が予見されたことも暴動の大きな原因となった。メティオ人は主に旧イクサンテで、戦地に近いことから戦役も多い。にもかかわらずイーファの誕生により旧イクサンテの冷遇が予見されたための暴動であった
yuuma 6970	アンダント、アンペルの暴動を押さえつける
同	イクスタン、ルクレティアとの間に娘 cuukiite を授かる。西の暴動を見ていたイクスタンはこの年、旧イクサンテ系貴族のメティオ人 kalman の娘 toriste を第二夫人として娶る
yuuma 6971	アンペルの暴動は激化。イクスタンの援助を受け、アンペルが東につく。この時点で戦わずしてアンペルはイクスタンの手に
yuuma 6972	旧スカルディア圏にも暴動が広まる
yuuma 6974	アンダント、旧イクサンテ系貴族のアルシェリア人 kreptia を第二夫人として娶る。クレプティアは人種的にはシフェルだったため、マレットの多いイクサンテの完全な理解は得られなかったものの、暴動は一時沈静化
yuuma 6980	アンダント、クレプティアとの間に息子 haane を授かる。暴動が治まりを見せる。代わってレスティル宮中はイーファ派とハーネ派に分かれる
yuuma 6984	イクスタン、トリステとの間に息子 ulo を授かる。強力な魔力を持って生まれたウロに王は喜び、旧アルティアの高官たちは暗殺を企てる
yuuma 6993	イクスタン、トウトウに侵攻

yuuma 6994	旧アルティリア高官 yamer、イクスタンがトウトウ遠征でウロのもとを離れたのを機に、10歳のウロを暗殺しようとする。しかしわずか10歳のウロに返り討ちにあう
翌日	ウロはヤメール派を洗い出し、城門前でヤメール派及びその家族を引き回した上虐殺。高官の拷問は法律で禁止されており、斬首か絞首刑が量刑によって選ばれたが、ウロは拷問の末に凄惨な処刑を行った
同月	ウロに対する国民の暴動が起こる。10歳のウロは主導者 anzen を単身本拠地に乗り込んで捕らえ、城門前で高官らと同じように処刑。anzen 一派も処刑され、少年ウロの恐怖政治に国民は静まり返った
yuuma 6995	ウロの暴挙を聞いた王軍がトウトウから急遽引き返してくる。イクスタンは治世に戻り、ウロは懲罰館への軟禁が決まる
yuuma 7002	lyuux 病院の院長 ixirius は増え続ける患者を減らすため、あらゆる魔法を跳ね返す魔法イシリウスを開発。宮中の魔導師に実演し、たちまち評判となる。アンダントはイシリウス講座を開設し、これを教えることのできる魔導師の育成を開始した
yuuma 7004	アゼリア崩御
yuuma 7008	教官の準備が整い、各 lyusia に配属させ、イシリウスの使える魔導師の育成を開始
yuuma 7014	アンダント、イシリウス部隊を編成。トウトウに配置
yuuma 7021	アンダント、アンペルに侵攻
yuuma 7023	イシリウス部隊の戦力は絶大で、たちまちアンペルは陥落
yuuma 7024	イクスタン、アンペル戦の生き残りからイシリウスの情報を得、イシリウスの開発に臨む
yuuma 7026	イクスタン、ヴェマに ardegant 研究所を設立。イシリウスの研究に当たる
yuuma 7035	アンダント、ツェリンに侵攻

yuuma 7038	ルクレティアが捕虜となる。旧アルティリア派から救助の請願がイクスタンの元に集まる
yuuma 7039	ルーキーテ、母が捕らえられているルークスに隠密に飛ぶ。ルークスの歓楽街で飲み歩いていたイーファが、飲むと運転しなくなる困った性格で飛竜に乗って遊びまわっていたところ、歓楽街から離れた幽閉館横の飛竜小屋でルーキーテを発見。たちどころに一目ぼれしたが、ルーキーテは顔を見られたと思って焦って逃げる
yuuma 7040	ツェリン陥落。イクスタンは焦りだす
yuuma 7044	ardegant はいまだイシリウスを作れないまま、結局ウロがイシリウスを独自に開発。軟禁を解けばイシリウスを与えると の条件で父イクスタンと交渉。イクスタンはウロの軟禁を取り払った
yuuma 7045	イクスタンはツェリンに再度侵攻を試みたが、アンダントがルクレティアをカードに、侵攻しないよう脅迫する。国民の絶大な支持を受けるルクレティアを見殺しにするわけにはいかず、アンダントは侵攻を取りやめた
同冬	ウロは単身ルークスに潜伏。幽閉館に忍び込むと、ルクレティアを刺し殺し、看守を気絶させ、刃物を持たせた
翌日	ルクレティア暗殺の報がレスティルを駆け巡る
同月	暗殺の報がヴィーネに届く。レスティルは看守ごときがルクレティアを暗殺するのは幻滅的に不可能と主張。この主張がかえって「力のあるレスティル宮中の誰かによって暗殺され、その罪を看守が着せられた事件」という考えをヴィーネに与えた。一方レスティルでは旧イクサンテ派クレプティアの一派が疑われた。シルフィア派はウロの可能性も知っていたが、確証がない上に、これはクレプティア派を一掃できるチャンスであった。結果、クレプティアとハーネは幽閉される
yuuma 7050	国民の報復感情を背景に、イクスタンはツェリンに侵攻。前線にはイシリウス兵を加えていた。イシリウス兵を両陣に構えた戦争は戦死率が極めて低く、戦争のペースは極めて遅くなる。その結果戦争は長期化し、籠城している側は兵糧攻めを最も恐れた。アンダントはツェリン行きの補給部隊に多くのイシリウス兵を配置したため、イクスタンは補給路を断つことができず、籠城は長期に及んだ
yuuma 7100	ツェリン陥落
yuuma 7172	アンダント、ツェリンに侵攻

yuuma 7223	ツェリンにはウロとルーキーテが配置されており、守りが堅く、アンダントは撤退
yuuma 7260	この年までにアルシアの11魔将が全員寿命を迎える。アルシアは小さな政府で、官僚がおらず、政治・経済・軍事などはすべてユシフェールが取り仕切っていた。また、ユシフェールに子供はなかった。ユシフェールは各村長に統治を任せていたが、この村長たちはいずれも学者あがりの人間で、政治に疎く支配欲も少なかった。村長は会議をしたが誰も後継者になろうとしなかったため、アルシアはレスティルへの帰属を願い出る。ユシフェールの全滅によりアルシアを虎視眈々と狙っていたアンダントはこの申し出に対し狐に摘まれるような気持ちであった。困惑を隠せないアンダントであったが、願ってもない話ということでアルシアを併合した。アンダントは「アルシア人は晴耕雨読をさせておくのが一番。余計なちょっかいを出さなければ大人しく働いて納税してくれるありがたい国民」ということをようやく理解した。その結果、アンダントは学問を奨励して助成金を出し、学者に優遇税制を設け、当時写本しかなく一冊一冊が高価だった書物を無税とした。アルシア人の多くはこれを大歓迎し、大人しく晴耕雨読の生活に戻った
yuuma 7295	クレプティア派の嫌疑が解かれる。ハーネはウロが陰謀の首謀者だと気付いており、ヴィーネに対する徹底抗戦の構えを見せる
yuuma 7357	アンダント、前線にイーファとハーネを置き、ツェリンに侵攻
yuuma 7362	イーファが前線でルーキーテと再会。傷ついたルーキーテを泉で見つける。憧れの人が敵将と知ってショックを受けるイーファであったが、ルーキーテを逃がす。ルーキーテはイーファの恋心を知り、戸惑いを感じる
yuuma 7365	mag lea山の戦いでイーファはルーキーテと再び出会う。イーファは剣を収め、泉でルーキーテと話す。イーファが恋心を打ち明けると、ルーキーテは彼を受け入れる。その後、イーファは戦争を止めるべきだと主張。ルーキーテも賛同する
同	イーファとルーキーテは和平を実現するために、密かに自分の息のかかった人間を集めだす
yuuma 7378	アンダントが崩御し、ドゥルガは撤退。イーファとハーネの間で後継者争いが始まる。両者は互いに王を名乗り、ひとつの王府に居座った

yuuma 7380	混乱に乗じたイクスタンがアンペルに侵攻
yuuma 7381	侵攻したのも束の間、イクスタンも崩御。ヴィーネは撤退せず、ウロが総大将を務める。王府では後継者を争ってウロ派とルーキーテ派に分かれる
yuuma 7400	ルーキーテ、王府にて勝手に王位継承を公言。ドゥルガとの和平案を唱えだす。ウロは一切ルーキーテに従わず、自身も後継者を名乗り、前線から撤退せず。ヴェマの王府に対抗し、前線地帯に近いツェリンに暫定王府を建てる
yuuma 7414	イーファとハーネの対立が暴力的なものに発展。抗争が勃発
同春	ハーネが破れ、ハーネ派はアルカンスに新レスティリアを建て、王府を作る
yuuma 7416	アルナ王府がヴィーネとの和平案を唱えだす。一方、レスティリア王府は徹底抗戦の構えを見せる
yuuma 7422	ウロ、アンペルを陥落。アンペルを陥落させたことでウロの名声が高まる。逆にレスティルではアンペルを奪われた国民感情がハーネの支持に結びつく
yuuma 7424	ルーキーテもウロも王を名乗っていたが、アンペル陥落で名声を高めたウロに対抗するため、ルーキーテは皇女を名乗る（この皇女は女皇帝の意）。しかし国内では空回りの去勢に終わる
yuuma 7425	ウロが同様に皇帝を名乗る
yuuma 7433	クレプティア死亡
yuuma 7450	シルフィア死亡
yuuma 7465	イーファ、ルーキーテを娶り、停戦を宣言。これに対しハーネとウロは徹底抗戦の構えを見せる
yuuma 7466	ハーネは抗戦の意思を明らかにするため、アンペルに侵攻
yuuma 7477	ハーネ、息子の arxe を授かる
yuuma 7481	イーファ、息子の mete を授かる

yuuma 7484	ハーネ、イーファを暗殺しようとするが失敗
yuuma 7487	ハーネ、息子の arba を授かる
yuuma 7489	イーファがハーネの暗殺に成功。一気にドゥルガで和平ムードが高まる
yuuma 7490	ルーキーテが過激派トリステを暗殺するために、究極魔法ルーキーテを開発
同	ルーキーテがトリステを暗殺
yuuma 7491 夏	皇女ルーキーテがウロの暗殺を決行するが、究極魔法ルーキーテでもウロを倒しきれなかった。彼女は最後にウロを道連れにするために全力でルーキーテを撃ったが、ウロの魔力は皇女を凌駕。皇女ルーキーテは力尽て息絶える
同冬	愛妻を失ったイーファが立場を忘れて単身ツェリンに乗り込む。冷静さを欠いたイーファはウロに破れ、戦死する
後期 アディア 交戦(yuuma 7,491 alis ～ 8,095(imul 16))	
同秋	わずか 10 歳のメテが即位。イーファの右腕 mals が摂政となる。ここからカコ後期となる
yuuma 7492	ウロの西方遠征開始

yuuma 7542	ウロ、現ガルテア・カルテール国教の東側までを征服
yuuma 7544	ウロはメティオの皇帝を名乗り、旧ルーキーテ派をヴェマに封じる。さらにウロはヴェマから領土を奪い、メティオの領土の東側を拡大。現在のメティオの国境線を作る。sornaと tunas が yuklesika となっている点以外、現在の地図におおむね近い領土を形成する。ただし細かい異同はある
yuuma 7545	ウロはユクレシカに強力な影響力を持ち、自分の息のかかった人間で高官を構成し、ヴェマとの間に地理的な緩衝材としてユクレシカを利用した
yuuma 7578	ウロが魔方に侵攻。メテが防戦で前線に出る
同夏	強大な魔力を持ったメテの勢いは凄まじく、総大将のウロがじきじきに相手をした。ところがウロはメテに力負けし、ヴィーネは撤退を余儀なくされる
yuuma 7591	メテがアルシェの秘めた力を見出し、彼の男気に惚れこむ。アルシェにとってメテは政敵でありかつ父の仇の子であったが、アルシェもまたメテの男気に惚れ、親しくなる
yuuma 7599	メテがアルシェを右腕とし、ドゥルガ圏内から有力な猛者を集めだす
yuuma 7608	メテが私兵団 restant を作る。レストアントは超人集団の集まりで、小国のものなら軍隊すら殲滅できるほどの戦闘力があつた
yuuma 7621	メテ、メティオに侵攻。一騎打ちを避けたかったウロは徹底抗戦の構えを見せ、戦争は長期に及んだ。メテは一騎打ちをしようとしたが籠城するウロをおびき出せず、かといって単身軍隊の中にいけば流石に戦死することが明らかだったため、若く気のはやるメテには受難であった。この戦争で多数のレストアントのメンバーが戦死。逆にこの戦いを生き延びたメンバーは後の使徒になる精鋭として残ることとなる
yuuma 7684	メティオ城を陥落させ、ついにメテがウロを追い詰め、一騎打ちをする。メテはウロを倒し、メティオをドゥルガの属国とした
yuuma 7718	メテ、ユクレシカに侵攻

yuuma 7724	木星圏でデスパに封印されていたベーゼルが封印を破る。続いてほかのソームも次々と封印から出てくる
yuuma 7728	ソームよりずいぶん後に封印されたミダンとヴェンシートであったが、特にヴェンシートの呪いが激しく、デスパの弱まりが激しく、封印が解ける。ヴェンシートはミダンの封印が解けるのを待った
yuuma 7729	ミダンの封印が解け、ソームと落ち合う。ヴァルテの復活を待つかどうかを会議したものの、ずいぶん時間がかかりそうなため、先に神に復讐せんと決議。彼らはバルマージュからバルマーユに降り立つ。しかしその土地には脆弱なユーマの一族の子孫が大勢いるだけであった
同	teetiaは悪魔の降臨を歓迎したが、letisはこれを拒み、攻撃を開始。ベーゼルが軽くletisの魔法を振り払ったところ、人間はあっという間に灰と化してしまった。これを見てあまりの弱体ぶりに悪魔たちは驚きを隠せなかった。ベーゼルは「ユーマの一族に特に恨みはない。彼らは一度死ぬと蘇ることができないので、むげに殺しては可哀想だ」と言い、ほかの悪魔もこれに賛同。人間が死なないように適当に攻撃をかわしていると、letisは圧倒的な力の差に怯え、逃げるように魔方から去っていった。エルヴァがバルマーユの民に話を聞こうとするが、彼らの言葉が分からない。エルヴァがベルトを呼ぶと、メルティアも一緒についてきて、歴史について説明。事情を知ったソームは落胆すると、ヴァルテ復活まで待とうと木星に帰ることに決めた。ところがteetiaの知識人がフィルヴェーユ語で必死に滞在を請願。気をよくしたソームは魔方に住むことに決めた。魔方は度重なる戦争で荒れ放題で、砂漠化も深刻であった。テーヴェは土を大地に敷き詰め、エルヴァは水をやり、サティは風を吹かせ、ベーゼルとパルトは夜を照らし、日照の強すぎる日はヴェルムが空を覆い、letisの侵略者はイルヴァが雷で薙ぎ払った。キルセレスらも魔方に住み着き、剣術などを指南した
yuuma 7730	アルフィはチームスの復活に騒然とした。ルフェルとアルデスがアルカンスで会合を行う。ウロなき今、カコはほぼドゥルガの勝利で固まっていたこともあり、今は東西で争っている場合ではないと神々は人間に告げる。こうして人々の意識は東西の対立からletisとteetiaの対立へと揺れ動いていく
yuuma 7884	緊張状態がアトラス全土を覆うも、当の悪魔は魔方人との生活を楽しんでた。もともとvasteが数万年単位で行われていたこともあり、人間に合わせて気が短くなっていた神々に比べ、ずっと眠っていたチームスは非常にゆったりした速度で生

	<p>きていた。この温度差が当世の神やユーマの一族には理解できず、アトラスもアルフィも緊張したままであった。しかし皮肉なことにこの緊張が束の間の平和をもたらした。150年以上続いた平和はベーゼルの「そろそろ神を倒しにいくか」という気まぐれな言葉で破られた。これに対しヴェルムは「気が短いな」と答えたが、反対はしなかった。悪魔は魔方人に相談をした。自分たちは神を倒すためにアトラスに来た。しかし神はアルフィへ去っている。どうすればよいかと。すると魔方人は神人貿易に使っているサリュを開放し、ここから悪魔をアルフィへ移送する計画を持ち出した。アトラスからアルフィへ悪魔を移すのは召喚を逆ルートで行うだけのことであり、要は召喚と同じことである。召喚士は神を呼び出すので、当然 letis に多い。teetia は召喚士がほぼいない。そこで彼らは召喚士の技術を盗み、悪魔召喚士を養成することに決定。一人の悪魔召喚士が悪魔をアルフィへ送っても、悪魔が活動できる時間はわずか数秒で、それでは意味がない。そこで teetia は数千数万の悪魔召喚士を養成することにした。活動は秘密裏に行われた</p>
yuuma 7886	<p>しかしそんな大きな活動を隠し通せるはずもなく、2年と持たずに計画は神とユーマの一族に洩れることとなる。計画を知った神々は騒然とし、ルフェルとアルデスはメテを交えて今度はアルナで会談を行う。そこでユルグがこのような計画を立てた。「1:召喚士との個人契約制を一時廃止 2:letisの召喚士をなるべく多く集め、魔方にて神を召喚 3:神々がチームスを押さえている間に、メテら letis が魔方に侵攻し、teetia を殲滅 4:さらに魔方のサリュも破壊」 三者はこれに同意し、準備を整える。主に準備が必要なのはユーマの一族側であった</p>
yuuma 7889	メテ、魔方へ侵攻
yuuma 7905	genos を突破
yuuma 7914	アルバ、息子の freigan を授かる
yuuma 7926	<p>敵本拠地 lazdia を陥落。ユルグの作戦通り事は運んだ。しかし思わぬ誤算が起こる。虜囚となった teetia を助けるため、悪魔が神の罠にかかる。アルデスとルフェルが召喚され、ソームらと戦う。ソームは teetia の命を保障すれば今回は大人しく侵略を諦め、デスパの眠りにつくると約束。アルデスとルフェルとメテはこれを飲み、ソームらを封印。メルティアらが現れ、バルマーージュから木星へ去っていく</p>
同冬	メテは虜囚となっていた teetia を一人残らず処刑した

yuuma 7927	魔方戦争でアルカットの支配権を掌握したメテは、アトラス全土に teetia の掃討令を発布。国籍や人種に関係なく、teetia であれば無条件で掃討すべしと命じた。teetia は悪魔と結んで神はおろか同胞のユーマの一族をも裏切った正真正銘の邪教徒で、到底許すことはできないと強く主張し、自ら進んで広場で虐殺を演じて見せた。これにより、世界中で teetia の大虐殺が起こる。teetia は国も故郷も失い、流浪の民となる
yuuma 7935	メテは魔方戦争で生き残ったレストアントを集めて metel という新しい団体を設立。アルシェを右腕とした。メテは自らをルシーラと呼び、メテルのメンバーを使徒と呼んだ
yuuma 7944	[言語] [文字] メテ会談。444 のメテ幼字ができる→hac
yuuma 7946	[言語] [文字] 神々がメテ幼字を採用→hac
yuuma 7969	[言語] [文字] ルティアがメテ幼字を公用文字に→hac
yuuma 7976	teetia という共通の敵が去ったことで、徐々にドゥルガとヴィーネの対立の構図が戻ってくる。背景には、メテがドゥルガであることによるヴィーネの冷遇にあった。また、同じドゥルガ内でもアルシェリアや魔方各国は属国のような扱いを受けており、レストイルの専制的なやり方を疎んじていた。遂にこの年、ヴィーネからレジスタンスが現れる。ウロによってユクレシア南部に封じられていた元メティオ王家の子孫である sonaria が立ち上がる。ソナリアは旧イクサンテの血筋で、要するに teetia の血筋である。ユクレシアがメテの手の届きにくいヴィーネ側であることと、ソナリア自身が王家の人間であることから迫害はどうか免れていたものの、メティオの復興を目指して立ち上がった。これに対し、離散していた teetia が世界中からユクレシアに集まり始める
yuuma 7980	ユクレシア王府は teetia の亡命を禁止
yuuma 7981	これに対し、ソナリアは王府の意向を完全に否定。勝手に teetia を受け入れ始める
yuuma 7984	ユクレシア王 harmitte、ソナリアの本拠地 mistin に侵攻
yuuma 7987	ハーミッテ撤退
yuuma 7988	ソナリア、ユクレシアからの独立を宣言。ユクレシア南部を sorna と称し、自身はソーナの暫定的な王を名乗る。これによ

	リユクレシア北部は tunas に改名
yuuma 7990	メテがメティオからソーナに侵攻。しかしメティオに潜伏していた多数の teetia が暴徒と化し、兵舎は大火災に巻き込まれ、メテは撤退を余儀なくされる
yuuma 7991	撤退を受け、ソナリアがメティオに侵攻。teetia の助けを得て letis を追い出し、メティオを取り戻し、メティオの王になる。ソーナは娘の yulia が女王となる
yuuma 7993	teetia が大量に潜伏していた魔方がソナリアの助けを得て次々と letis を追い出し、レスティルの支配から脱する
yuuma 7994	ソナリア、実の娘ユリアとの間に娘 sorn を授かる
yuuma 7996	アルシェリアがレスティルの重税を嫌って独立を図る。teetia の虐殺は不当として、メテが出した掃討令を破棄する
yuuma 7997	メテがアルシェリアに従属を命じるも、アルシェリアの letis も teetia もこれに逆らい、徹底抗戦の構えを見せる。それを後ろからソナリアがバックアップし、メテは引き下がらざるをえなくなった
yuuma 8000	レスティル、アルディアルと同盟
yuuma 8002	連合軍、北部から直接エスティアへ侵攻
yuuma 8004	ソナリア、メテとの戦いで戦死。ソナリアが崩御し、ソーンが若干 10 歳でメティオの女王となる。摂生はソーナ女王のユリアが兼任した
yuuma 8006	エスティア陥落。勢いを止めず、メテはベルティアに侵攻（キルティアはここからだと言いがちで、いくら空が飛べるといっても越えづらい）
yuuma 8007	13 歳のソーンがベルティアで総大将となる
yuuma 8009	15 歳のソーンが前線でメテと対峙。ソーンはわざと未熟を装い、命からがら逃げる振りをする。油断したメテが使徒を連れずにソーンを追う。そして kandi ra の丘でソーンに葬られる

同	メテを失ったレスティルに衝撃が走り、レスティル軍は撤退する。アルシェが王になりメテルを指揮するも、レスティルの影響力は下火となる。アルシェはメテルをアルシェに改名
同	〔言語〕 〔文字〕 ソーンがメテ幼字を廃止、アルハノンを公用文字に→hac
yuuma 8010	ケートで独立が叫ばれるようになる
yuuma 8024	ソーンがエスティアに侵攻
yuuma 8031	エスティア陥落
yuuma 8043	ソーン、アルディアルを脅迫。アルディアルはレスティルとの同盟を解消。アルディアルは同盟に固執した西側と同盟の解消に賛同した東側に割れる
yuuma 8046	diminionがアルディアルから独立。同時に eni ik も独立し、こちらはソーンについた。当時の eni ik は現在の arta も含んだ
yuuma 8052	ユリア、新王府 eni ik の政治が不安定なのをいいことに、eni ik 東部に自分の息のかかった人間を放つ。eni ik は慢性的な人材及び経験不足であったため、これを受け入れざるをえなかった
yuuma 8069	ソーン、世界各国から有能な人材を集め、アルシェに似せて私兵団ソーンを結成
yuuma 8078	ソーン、ディミニオンの脅迫を終え、ようやくディミニオンを寝返らせる
yuuma 8080	アルシェがイムル暦を採択する。アルシェのミスにより、yuuma 8080 が imul 1 に等しい。アルシェ、みなしごリディアと出会い、10歳の少女を自分の恋人として密かに育てだす
imul 2	ソーンが使徒を引き連れ、ディミニオンを通過してレスティルに侵入。アルシェとソーンの抗争、アディア抗争が起こる。抗争の結果、使徒のすべてが戦死し、アルシェもソーンに倒される。しかしソーンは大きく負傷し、命からがら本国へ逃げ去る
同	アルシェの弟アルバが王となる

imul 3	アルバがリディアをソーンの前で刺客として放つ。女色のソーンはこの美少女をいたく気に入り、腰元に入れた
imul 4	リディアが寝室でソーンを果物ナイフで刺し殺す。ソーンはリディアを愛しており、何かあれば彼女に起こすように頼んであり、この日は mejtel をつけていなかった。リディアは逃走するも捕縛され、拷問死する。メティオは王を失い、混乱。適切な後継者がおらず、混乱は激化
imul 5	〔言語〕 〔文字〕 アルバがアルハノンを廃止、響字を公用文字に→hac
imul 7	アルバ崩御。freigan がアルバ二世として即位
imul 10	レスティルからケートイアが独立。アルバ二世は対抗する戦力がなく、これを承認。レスティルをアルバザードと改名する
imul 12	ユリア、メティオ高官の ranton と再婚
imul 14	ユリア、息子の varmil ia を授かる
imul 15	ユリア、ヴィーネ圏を解体
imul 16	ユリア、アルバ二世に和平を提案。アルバはこれを受け入れ、ドゥルガ圏を解体。カコの終了を宣言する。ここでカコは終わり、17年からセルメルとなる
●selmel	sm 以降は魔法学や科学の発展に伴い、社会や文化が複雑化した。現代の文化の多くがこの時代に源流を持つ。出来事をすべて列挙したり各出来事についてすべて記載すると年表でなくなるため、仔細は幻日の文化欄に預けてこちらでは概略に努める。dolmiyu や seles などを項目ごとに分けて表にしたら年表が何倍にもなってしまう
区分	カコとアルディアの間の時代。イムル 20 年から 1500 年までの 1480 年間。

	<p>0～800 前期</p> <p>800～1200 中期</p> <p>1200～1500 ころ 後期</p> <p>寿命比でいうと、0～1200までの1200年間で地球の400年に相当。実質 sm は 700年間に相当</p> <p>王族など高ヴィードな人間以外は1200以降は現代人程度の寿命。王族は前期は3～500年前後、中期は2～300年前後、後期は一般人と同じか長くとも百数十才程度まで</p>
・ 前期	
20	二世、arnon 設立
22	カノイがインフラを整備
67	アルティア人の間に vir が少なく noa と yuno の多い遺伝子が普及する
99	フェリウス、二世とともにアルナ学校建設
122	ルシフェル魔法学校
159	アルティアで魔導師が減少し、武士の台頭への機運が高まる
264	アルティアで武家政治が台頭
387	アルティアのルティアへの貿易が停止
399	二世崩御

444	ルティア、アルティアへ攻撃。開港を迫る。アルティアで開国と攘夷に分かれ、内乱
572	アディア2期開始。エンデミルとクレタティス
622	内乱が収束。攘夷派が勝つ
684	アルティア、ルティアへ侵攻
724	三世崩御
745	トモエ陥落
・中期	
821	アルティア、ルティア西部を支配
927	アルティア、ミディートと同盟
989	四世崩御
1000	アルティア、サヴィアからアンシャルへ侵攻
1056	同、ファルファニアを支配
1102	同、アルバザード南部を支配
1189	五世崩御。王族の寿命の短さが顕著になり、国内に不安が走る。ケートイアが侵略の好機と捉える→ragnalok
1192	六世、対ケートイアを意識し、武器開発に注力
・後期	

1202	オスティア、グレアを発明
1204	ケートイア、アルバザードへ侵攻。アルバザードがグレアで防ぎきる
1205	ラグナロク工科大学
1244	アルディア3期開始。プルフェとハイジング
1336	六世崩御
1441	七世崩御
1456	belgandの共和制が崩壊を見せ始める。原因はヴェイガン族の隆盛。エルヴェイグ族とエリアン族が危機感を持ち、共闘。これにより内乱が発生
1467	内乱が鎮圧され、ヴェイガン族の執政官であったhanivalが王位に就き、王制を開始。これによりbelgandは王国となる。
1471	内乱の功労者に報いるための禄が足りず、内紛の気配が高まり、緊張が走る。hanivalはアルバザードへの侵略を開始。このときカテージュ南西部はbelgandの土地で、この地域を統治していたのは内乱で負けたいわゆる外様大名に当たる領主であった。内紛を消すためにここに功労者を置きたい。しかしそれでは外様が反乱を新たに起こすのは目に見えている。そのためカテージュに侵攻し領土を奪い、そこを外様に支配させようと考えたわけである。内乱が終わって4年して少し落ち着いたこともあり、hanivalはカテージュへ派兵。人類との間に亀裂が生じる。このときの出来事が後のvernsaalでの魔族間の同盟をもたらすこととなる
1473	カテージュが陥落。アルバザードに衝撃が走る
1498	vernsaal セルアが大噴火し、火山灰がフィーリア上空を中心とし西アンシャル全域を広く覆う。灰が上空に留まりつづけた結果、気温が低下。これにより農作物が軒並み凶作となり、食糧が高騰。主な被害はヴェルシオン、イネアート、フレディスク、ヒュート、ディミニオン、ケートイア、アルバザード北部に及んだ。

	<p>土地柄自給率の低いヴェルシオンは輸入に頼っていたが、アンシャルは国内の食糧確保で精一杯だったため、特にヴェルシオンで食糧が高騰。この時代はまだ飛行機がなく、また航路も開拓されておらず、さらに西アンシャル以外のほとんどの地域と貿易が行われてこなかったため、食糧供給がおぼつかなくなる。</p> <p>食糧が高騰し、低所得者を中心に餓死者が現れ、民衆の間に不満が生じる。このままでは飢えて死を待つばかりで、奪う以外の選択肢はないというところまで追い込まれたヴェルシオンは飛水晶を利用した飛空艇の開発に着手。これは略奪のための開発であった。しかし国家としては大義名分がなければ戦争はしかけられない。そこで貿易における条約違反を細かくあげつらい、厳しくフレディスクを非難。因縁をつける形で戦争をしかけ、飛空艇を投入。むろん実際の目的は街を襲って食料を収奪することにあつた。それゆえ始めから飛空艇は多くの積載量を見込んで船の形をしていた。造船技術は既にあつたため、船型にすれば飛水晶の動力室を設けるなどをすればすぐに実戦投入できるという利点もあつた。船型は一度に多くの兵士を送ることができる点でも効果的であつた。また、略奪後は当然船の重さが増す。そもそもの目的が収奪なので、重量は相当増す。帰りはその分だけクリスタルに負荷をかけることになってしまう。そこで帰りは海路を使うことでクリスタルの消耗を減らした。つまり一度海上で着水し、あとは船として帰港する。これだともっとも無駄が少ない。しかも行きは全工程が空路なので、沿岸部以外の街からも直接収奪できる。</p> <p>このころ飛行機はまだないが、火山灰は飛行機にとって好都合な高さを維持していた。このため飛空艇はその下を飛んだ。飛水晶があればこそ低い高度が維持できた。また飛空艇は上空から攻撃をしたので、ある程度地上に近い必要性もあつた。</p> <p>この年に起きた噴火は農作物の被害から飛空艇を生み、飛空艇は戦争を生み、戦争はアルディア（悪魔と人の戦い）に発展してアシェットを生み、歴史をセルメルからアルディアに変えた。この出来事をヴェルンサールの悲劇といい、これをもってセルメルの終わり、アルディアの始まりとする</p>
同	食料を求めてヴェルシオンから逃げ出す国民が増える
1499	飛空艇が完成。最初に狙われたのは沿岸部にあるフレディスクで、海岸から少し離れた地域が狙われた 続いてイネアート西部、ヒュート西部も襲撃された
●ardia	1500 ごろ～1591 前期

	1591～1610(21) 後期
・前期	
1500	西アンシャルが連合を作り、対 velxion 戦を宣言。belgand はこれに便乗して velxion につき、連合は挟撃される形となった。ここに悪魔と人間の戦いが始まる
1501	ヴェルシオンが jindia 山脈上に飛空艇の航路を見出す
1522	八世崩御。vernsaal と合わせて国内の混乱がピークに
1527	アディア 4 期 1 代開始。アルタスとフェリス。規模が小さく、アディアの末裔を名乗っただけで、その上混乱期でもあったため、記録がかなり焼失しており、仔細は不明。混乱期にありがちな「混乱を収めるという名目の小規模戦闘集団」と目される。恐らく別々の利権団体が対立してアルシェとソーンを名乗っただけと思われる。ソーンには東アンシャル、アルシェには西アンシャルが多く、地域経済的な要因を感じる
1520～30 代	1 代と経済的な直接の関係があるのか不明なるも、2 代が開始。ナルシェ＝グラントとテストィア＝メテ。2 代にはリーザらの直接の知り合いや先生がおり、3 代との繋がりが確実
1544	チームスに復活の兆し
1569	九世のもとに十世が遅れて誕生
1575	ミスティア錬金術舎
1579	アディアが 3 代のリーザらへ継承。86 年ごろまで抗争が断続的に起こる
1584	この世界のヒロイン、リディア＝ルティア誕生
1586	2 代までは言ってみればただの武装団体の利権闘争でしかなかったが、チームスの封印をリーザらが強化したこと、リーザ

	がルティア女王だったことから、アディアが再び世界の注目を集める
1588	九世崩御。若き十世ヴレヴラントが即位
1590	テームス復活。アデルの増加。混沌の世の中へ
・後期	
1591	4代開始
同	アルシェ、古アルカ
90年代	ソーンと抗争の兆し
1600	アディア和平。アシェットへ
1600	アシェット、テームスを殲滅。英雄へ
11 zan tan	これで悪魔は復活ができなくなった。残る悪魔の殲滅へ向けて仕切りなおす
1600末	リーザ、制アルカ制作依頼をセレンへ
	アルテージュができて悪魔が降り注ぐ 悪魔アルマが悪魔の長となる
1601春	ソームなど、一部の悪魔がアルテージュから攻め来る
12 dyu ral	ソーンはアトラス防衛軍となり、星を守った アルシェはアルテージュを通して残る悪魔らを倒し、最後にアルマを殺した この後アシェットは逃げた悪魔とアトラス上の魔族の掃討に追われることになる

1601 夏	セレン、制アルカ着手
1601	アシェット、国内のインフラ整備を強化。教育や通信も強化
1608	アシェット、新生アルカ
1608 初夏	アシェット、すべての veldir を星座に封印しておえる
1609 末	アシェット解体
●nadia	
1610 21	<p>このときのアルバザードはすでに多くの民族からなっていたため、アルバレンでは不都合かつ不平等 民衆は英雄の言葉を歓迎したが、アシェットは乗り気でなかった</p> <p>この年、一部の民衆に押される形でアシェットは国の基幹部分にアルカを用い、公用語のひとつにした 上がやれば商人が追従し、やがて下も真似るようになる</p> <p>しかしアシェットはそれを焦らず、なるように自然に任せた。アルバレンに回帰するならそれもまたよしとした 公用語のひとつにした後、アシェットはレミール言語庁にアルカを託し、資料を公開 国民が言語を自由に変えたり使ったりできるようにした</p>
1610 21	<p>役目を終えたセレンが姿を消す。異世界人説が民間人の間でも囁かれた</p> <p>気が触れたリディアは直後に世界の終焉と自身らの転生を予言して姿を消すが、後のアルティス教はこれをチームスの復活 とアシェットの再来と解釈した</p> <p>ルティアはリーザが再び女王の座につき、アルバザードは王家の手に戻る</p> <p>残された次世代の育成はメルが引き受け、「ルシーラ先生」の愛称で親しまれるように</p>

1617 28	ルシアがルティア女王となる。幼いころから「智慧の杖」と呼ばれ、万人に畏怖されるほどの知力を誇った恋心を持たない少女で、生涯ユルトに世話女房気取りでくっついて回った
1621 32	14才になったルシアらのもとからメルが忽然と姿を消す ケートイアは混乱に陥る ユルトがケートイア王となる。「アディーユ王」の愛称で親しまれるほどの人格者で、国民から慕われた
62	アッティ=メテ、火薬銃
65	同、世界一周。大航海時代の幕開け
70	同、メティオ～ルティア～アルバザード間に貿易路を大成
82	最も長命だった kunon と milf が死去。アシェットが全員この世を去る
98	xelii alteems, xeliibolt
115	xiva alhaik, 10才で親を失い、海賊との対峙を決意。このころ海賊時代
120	アルバザード、メティオ、ルティアで対海賊連合
124	gaav frestia 敗走。海賊時代が終わる。連合が勝ち、利権を握り、強国アルメティアへ駒を進める
130代	植民地政策
141	アルバザード海軍が海賊の残党を掃討
●artil	

150	経済が悪化。反政府組織が乱立。その中からやがて共産圏を作るイグレスが台頭しだす。同、イグレスタができる
157	アルバ王によるイグレスタ迫害。イグレスはデスパナへ
162	イグレスがデスパナで台頭
173	トール=ヴァルベス、デスパナで共産革命
174	イグレスタがデスパナで与党に
175	イグレスがトール=ヴァルベスの残党に暗殺さる
185	イグレスタ圏の経済が戦争等により疲弊
200	シオン=アマンゼ誕生
203	ミナリス台頭。選挙制度を訴える
205	ミナリスがミナレット樹立
214	ユベール=ゲノス、嘆きの牢獄を襲撃。ミナリスを救出
同	シオン、マルテを懐妊
215	マルテ誕生 アジュネ、アルティス教樹立
217	イーレス=ヴァマのインフラ企業との癒着が発覚。ミナレット台頭への契機となる
219	ミナレットがイーレスを暗殺。アルバ王から功績を認められ、その後インフラに権力を持つように
227	ヴァルゾン=アルサール暗殺さる
229	ミナレットが台頭

230	<p>第一回選挙</p> <p>アフレインのもとでアルマスト派ができる</p> <p>アジノンのもとでヴァルテス派ができる</p>
234	第二回選挙
238	第三回選挙
240	ジャガイモの種枯れ病が蔓延。テスラン=ナオンによるファベル侵攻の契機となる
242	第四回選挙
244	副王ミナリス、アルバ王を教唆し、アルティス迫害
246	第五回選挙
247	ヴァーサ=エニーク、アライブ党樹立。ミナレットの分裂へ
251	ファウス、アデュへ侵攻。マルテをイネアートに追放
253	同、イネアートへ侵攻。イネアートはアルティスと共闘
254	マルテがイネアートのアルタレスに
255	アルティスがテロとなり、ミナレットを攻撃
257	報復でファウスがイネアートに再度侵攻
258	ジンティ=アルテームス、飛行機を
259	ファウスの3度目の侵攻

260	4度目の侵攻でイネアート陥落 アデュで大規模なアルティス迫害 マルテにユレットとアメリ誕生
262	ファウスがアルティス根絶を宣言。迫害が最高潮に。ここから290までランティス・タンヴェル
268	ジンティ、月へロケットを
276	同、宇宙船を
282	同、アンセの原型を。通信機器の整備
285	マルテがファウスと相討ちに
291	アルファウス、アフレインを倒してアルバザードの実権を握る
292	アメリとユレットが共闘してアルファウスとケートイアで戦い、ケートイアを守る。しかしアルマストとアルシオンが相互不信であるため、それ以上身動きが取れない。アルファウスとの戦いも膠着化
294	アメリとユレットは次の条件をアルファウスが飲まない場合は更なる共闘をすることを約束 条件：アルファウスはアルバ王に「アルティス迫害禁止」の法案を通させること
295	アルファウスは共闘の盟約を知り、条件を飲み、5年後の選挙の実施も受け入れる
300	ミナレットとアルティスが和平を宣言
●velei	

300	<p>仕切り直しで第一回選挙開催。このとき副王アルファウスが事実上の支配者。国王派との対立が生じていたが、この年、王が無条件降伏をし、王は象徴となり、aster 職ができる</p> <p>アメリらは第二のランティス・タンヴェルを恐れる</p> <p>アメリとユレットはミロクを設ける。自分の子と隠すためにカイン=ユティアに託す</p>
320年まで	民主政権による腐敗政治
304	第二回選挙。ミナレットとアルティスが主な政党だったが、腐敗の中、信頼を失っていく
308	第三回選挙
310	<p>両政党の和平が破れる。アルファウスがアメリとユレットを討ち、共倒れに</p> <p>幼きミロク=ユティアが党首に。カインが実質党首を務めたがアメリらに力は及ばず</p>
312	<p>第四回選挙</p> <p>アルティスとミナレットは議席が減少。イシリウス=ゲノスの力があるため、後者優勢。弱小政党が勢いをつける</p> <p>少年ミロクは仲間を募って新党イルミロクを結党し、党首に。カインはこれも修行のひとつとして見守り、ミロクに代わって元の党の党首に</p>
314	<p>カインはしょせん子供の遊びと看過したが、ミロクのカリスマは尋常ではなく、徐々に有能な人材が集まりだす</p> <p>ミロクはアルナ校でリーファ隊を結成。幼馴染のヴェルドゥルネ=フレイギルドをアルソンとして迎えるなどした</p>
315	政治腐敗に対する国民の怒りが高まる
316	<p>第五回選挙。レヴェレンが野党に。アルミナ、アミナル、アライブが連立与党に</p> <p>ミロクが異例の若さでイルミロクの党首として出馬。アルタレスを狙うも選挙で惨敗</p> <p>国民はいくら政府に怒ろうが少数政党イルミロクに委ねることはないし、小僧をアルタレスに据える気もない</p>

	<p>この判断を受けてミロクは革命を強く考えるようになる</p> <p>「正しい選択ができない人間に選ばせていたら、いつまで経っても正しい世の中にならない それが王なら王を討つ、それがアステルならアステルを、それが国民なら国民を」</p>
320	<p>ミロク革命→mirokizm, mirok yutia, yuulia arka</p> <p>独裁政権樹立、選挙の廃止、アルティス教全盛</p> <p>反対者は次々とアデュへ送られた</p>
321	<p>ルティアとアルティアはいち早くミロクに尻尾を振って同盟へ</p>
322	<p>反ミロク連合結成</p>
323	<p>サライ建設がアルナで着手</p>
324	<p>王族がファルシアン宮からジェリオン宮へ移される</p>
325	<p>アルナ学校が改築され、アルナ大などが現在の形に</p>
326	<p>何百回にも及んだミロク暗殺計画もミロクの強大な mej tel の前では何ひとつ意味をなさなかった</p> <p>ミロクは連合を殲滅。周辺諸国はすべて傘下へ</p>
327	<p>カテゴリーでもサライ建設が着手</p>
330 秋	<p>南半球を支配</p> <p>第三国の口減らし政策開始。民族浄化へ</p>
331	<p>アルナの地下道が発達</p>
333	<p>サライに用いた新インフラがアルナやカテゴリー周辺の都市圏で整備されはじめる</p>

336	アルナでサライが完成
337	国民のアンセ所有率が100%に
340	ミロク、ルシアとの間にアルテナを設ける この年までに10年間で世界人口が激減
343	カテゴリーでサライが完成
344	その他の大都市でサライを着手
347	地方におけるサライ建設の公共事業による経済的な旨味がアルナやカテゴリーほど得られないことが分かり、サライ建設から地方の立て直しへシフト
●aleiyu	
350	ミロク、アルテナに禅譲
354	聡明な少女アルテナのもとで、革命時にできた規制が次々と緩和されだす アルティスの価値観一本だったアルバザードは急速に本来の多様性を取り戻していく
359	月のクリスタルを求め、ルナ・プロジェクトが立ち上がる
366 末	トゥッティが月の悪魔シェルテスに襲われ、ヴァルデとエルフィを紛失
367	フェンゼル＝アルサールの乱 ハイン＝アルテームス、アルタレスへ
370	ミロク、アルテナとの間にアリシアを設ける

375	月面に居住空間ができる
380	ミロク=ユティア逝去
400	アルテナ逝去
●lanj	
400	アリシアがアステルに
404	最大の月面基地シェラザードの建設が完了。主にアルバザードの領土
405	不妊症のアリシアが35歳でようやくミーファを生む
408	シェラザードがアルバザードとの利害の対立から独立を意識
410	lamvort。ディミニオンがアトラスに降り注ぐ この惨事を解決するためにアセットが転生するとアルティス教徒が叫ぶ 人々はアセットの転生を心待ちにする
411	ディミニオン殲滅組織「アヴァンシアン」設立
412	アトラスの荒廃をいいことに、シェラザードが独立を宣言。アルバザードを中心にアトラスと対立
414	アンジェリカのプロトタイプができる
416	ディミニオンが月を襲う。実際にはアンヴォルトを装ったアヴァンシアンによる攻撃
417	シェラザード、ディミニオン殲滅組織「ランフィオーレ」設立
418	フラム=ハンベル、ランフィオーレへ

419	アンジェリカの実験が終了。4号機まで制作される
420	ravelvort 戦闘はアヴァンシアン、ランフィオーレ、ディミニオンの三すくみとなっていく
422	ミュールティア、アヴァンシアンへ
424	アルティス教徒に基づけば lamvort で転生した子供の中に転生者がいることになる。そこで少年兵が急増 アンジェリカとの相性が良いこともあり、シェラザードもランフィオーレも少年少女兵を多く育成する ルシフェル=アルバザード、アヴァンシアンへ
425	ミーファがアステルに
428	ルシフェル、ミュとの間に息子のナレムを設ける
431	アヴァンシアン、ランフィオーレを事実上支配
434	最後のディミニオン「verntiia」が現る
436	少女リディア、ランフィオーレへ
438	リディア、アヴァンシアンへ移籍
442	ナレム、アヴァンシアンへ リディアと出会う
443	ナレム・リディア、未殲滅のディミニオンを掃討
444	ナレムが世界の真実に辿り着く

アヴァンシアンやランフィオーレに在籍する少年少女は誰一人として転生したランティスではなかった
リディア＝ルティアが予言した転生とは、ユーマの一族を守護する guardian に自身が宿ることではなかった
リディア＝ルティアの転生した先は、ほかならぬディミニオンだったのだ
自分たちガーディアンは英霊を授かっておらず、それどころかむしろ崇めていた英霊と戦っていたのだ
信じ祈ってきた英霊こそ、この世に終焉を齎そうとしていた敵であった

絶望にくれるナレムの横で、謎の少女リディアはヴェルンティーアと接触する
リディアはヴェルンティーアそのものであり、彼女たちは融合してひとつになった
ヴェルンティーアは世界を飲み込み、一瞬にしてこの星のすべての生き物を滅亡させた
アルフィ、月、宇宙、そしてアルデルやメルティアをも飲み込んだ彼女はアルバザードのアシェルフィだけ残し、この世界にわずかに残したその空間に自分たちを置いた
飲み込まれた空間はすべて虚無へと消え、世界は旧跡であるアルシェの家の屋上のみが残った
ナレムは insel に凌駕されて掻き消され、彼の心身は正体を取り戻した
その屋上でリディアは転生した男にすべての事実を告げる
彼はリディアを受け入れ、二人はひとつになる
すべてがひとつになったとき、世界は完全に収束し、終わりを告げる

そしてそのひとつになった全ての終わりの中からガレットが生まれ、速やかに arma になり、世界は永劫回帰を繰り返す

●世界人口の推移

原則としてアトラスでは寿命の長いアテンほど人口が少ない傾向がある。

魂科は最も数が少ない。ただし貴族未満の死神を加えると数は増え、低級死神を加えるとかなりの数になる。

死ぬことすらない悪魔は2桁しか存在せず、死にはするが寿命はないサルトは3桁しか存在しない。なお、悪魔でもアデルは量産型である。

神と人の中間的な存在であるロゼットは神々よりは人口が多いものの、ユーマの一族はロゼットよりさらに多い。

ただし、ユーマの一族も上代は神に近い存在であるため、寿命が長く、代わりに人口が少ない。

ユーマの一族が地球の人類並みのライフサイクルになるのはsmになってからである。

アズゲル〜カコで統治をしていた上のほうの人間は相変わらず長命である。

王も含めて完全に地球の人類と同じ寿命になったのはsmからである。

従って、地球の人口増加の考え方が適応できるのはセルメル以降で、それ以前は事情が異なることに留意したい。

●種族

魂科：アトワーユヤルノなど。死神貴族の4人、エミリオとミスティ、アツカイなど、数が少ない。10人前後。

低級死神：低級は死ぬと砂になる。寿命はないが死ぬことができるため、数は多い。

悪魔：アルマやヴァルテなど。寿命はなく、死んでもテームスによって再生できる。魂科よりは多い。2桁。

魔物：弱いため、大量に存在する。強さが1階から9階まで分かれており、階が上がるほど人口が減る傾向にあるが、必ずそうとは限らない。

幻神：エルトとサールのこと。神科。人口はラヴァスで最も増えたものの、366人。

亜神：ロゼット。神と人の混血。寿命は1000年程度。2万年かけて増えたものの、人間ほど繁殖力は強くないため、ラヴァス終戦時で約2731万人。このうちラヴァスで功績のあった部族はアルフィ中心部で暮らすことが許されたが、それ以外は周辺部で暮らした。

ユーマの一族：ユーマの子孫たち。人類のこと。最も人口の変化が激しい。幻神と亜神はサリアとラヴァスで増えた後、人口に変化がほとんど見られない。ユーマの一族だけが激しく変化してきたため、以下ではユーマの一族の人口の変遷について述べる。

●fial

0人

●artem

・初期

ユーマ、アルドウ、エスタ。

・第三世代

エスタの16人の子供たち。meltia 35~50の間に生まれた。寿命がある。寿命はおよそ85万年で短命。

・第四世代

第三世代同士の子供たち。ただしtesteelは除く（彼女だけ第三世代に性質が近いため）。このころになると不老ですらなくなる。寿命は僅かに2万年で、性的に成熟するまで1万年かかった。1万年で人間でいう15歳ほどで、1.6万年ほどの間20代の青年の姿で、1.8万年ほど中年の姿で、残りの2千年で急激に老いて死ぬ。このため、1万年ごとに新世代が生まれることになる。

64人の第四世代は男女が32人ずつで、やはり親と同じくすべての兄弟と関係を持って子を成した。32人の女が32人ずつ子供を産んだので、1024人となる。

第五世代は第四世代がメルティア二桁代に生まれたとすると、1万年後のmeltia 1'0000ごろに生まれたことになる。もう1万年後には第四世代が死に、第六世代が生まれる。

・第五世代

寿命等は親世代と同じ。やはり512人ずつ男女がおり、それぞれに子供を作って26万2144人の子ができる。しかしあまりに子供の数が多いため、親の持つ神聖さが分散され、第六世代からは生殖能力が激減する。

・第六世代

寿命は同じく2万年だが、女は生涯に2人しか子供を産めず、逆に不妊や流産もない。まだ半分神なので、自然環境や動物に襲われるといった小さなことでは死なない。子供の男女比はきっかり1:1である。

ここからは人口が増えずに一定なので、ユーマの一族の人口はおよそ26万人のまま何十万年も世代交代を繰り返していく。

・第八十九世代 (melia 85'0000 ごろ) : 26 万人

八十九世代は寿命が極めて短くなり、わずか2000年であった。

住処をガルヴェーユからファベル・サヴィアに移し、人口は徐々に増えていく。

・ meltia 95'0000 ごろ : 117 万人

シフェルの民が食料と土地を求め、ファベルからアンシャル、サヴィアからインサールに入る。神がいるので西勢はフィーリア、ガルヴェーユ、ルカリアには住まず、この後9万年ほどかけてファルファニア、レスティル、魔方、東方、メティオに徐々に広がっていく。東勢のマレットは同じ時間をかけて西はメティオ以北と以東まで、南はケヴェアに散布していく。

・ meltia 100'0000 : 135 万人

ヴァステ開戦

・ meltia 100'9823 : 142 万人

ヴァステ終戦

srで神の文化と混ざり合い、軍事的にも神の恩恵を受け、適度なパワーバランスが太平の世を生み、パックス・サルトが成立。

これに便乗してユーマの一族は急激に人口を増やしていく。

ここからサリアの終わりまで2万年もあるため、いくら繁殖率が現代人より弱いとはいえ、100万程度しかいなかったユーマの一族はここで爆発的に増える。

・ meltia 103'0032 : 1 億 2645 万人

ラヴァス開戦

2万年かけて反映してきたユーマの一族だったが、ラヴァスの熾烈な戦いに巻き込まれ、徐々に伸び悩んでいく。

また、戦争で土地が荒廃すると飢饉が発生し、人口増加に歯止めがかかった。

さらに神々が世界中から持ち込んだ病原菌のせいで、より免疫力の弱いユーマの一族は次々と倒れていった。

戦災・飢饉・病原菌が原因で、ユーマの一族の人口はこの1万年でぐっと落ち込むこととなる。
だが絶滅には至らず、生き延びることができた。

・ meltia 104'0000 : 4239 万人

ラヴァス終戦

戦災・飢饉・病原菌により、人口は1万年で3分の1に減少。

しかしアズゲルを迎えるころにはさらなる短命化により、逆に出生率は上がっていく。

・ yuuma 794 : 5620 万人

アズゲル前夜が終わり、アズゲルが開戦

産めよ増やせよの政策で、人口が増えていく。

しかし戦災・飢饉・病原菌にたびたび悩まされ、思ったほど人口は伸び悩んだ。

・ yuuma 4578:8314 万人

アズゲル終戦。メルテナへ

・ yuuma 5391:1 億人

世界人口が1億人を突破。

・ yuuma 6451:1 億 2839 万人

カコ勃発。

・ yuuma 8080 = imul 1:2 億 521 万人

アルシェがイムル暦に改める。

このカコの後のセルメルでふたたび太平の世の中になり、後記 sm では長寿の王たちも途絶え、完全に人間と同じ人口システムになっていく。

長寿な王がセルメルで途絶えたため、時代はこれ以降小さい単位で区切られていく。
イムル暦が終わる 1588 年の間に、人口は爆発的に増加した。

・ imul 1588 = mel 0:4 億 5369 万人

アルディア

メル＝ケートイア誕生。

・ mel 98 : 7 億 23 万人

ナディア

シェリーボルト（産業革命）と植民地政策で、この後人口の増加ペースが早まる。

・ mel 150 : 9 億 1121 万人

アルティル

イグレスタ共産圏が成立。

・ mel 300 : 32 億 5388 万人

ヴェレイ

ミロク＝ユティア誕生

・ mel 320 : 48 億 8122 万人

ヴェレイ

ミロク革命開始。徹底した人口調整と間引きを行う。

だがすぐには革命を断行できず、ミロクは国内の革命から着手した。

それゆえ、人口減少が見られるのは革命後期からであり、革命着手後も爆発的な勢いで発展途上国を中心に人口は増え続けた。

・ mel 330 年秋 : 56 億 2274 万人

ヴェレイ

ミロク、南半球を統一。政治的に北半球に組み込み、事実上アトラス全土を統一する。

ここからミロクの間引き計画が発動し、以降10年で歴史上最も熾烈な人口零落が起こる。

・mel 340：45億3431万人

アレイユ

ミロクがアルテナに統治を引き継ぐ。

・mel 410：91億1204万人

ランジュ

lamvortが発生。以降ディミニオンの攻撃により人口増加が伸び悩む。

・mel 444：102億5613万人

ランジュ

世界が終焉を迎え、無に戻る。